

第 5 1 号

学体連会報

平成 2 6 年度



公益財団法人 日本学校体育研究連合会
([http : //www.gakutairen.jp](http://www.gakutairen.jp))

あしいく

“足育”を学校教育に位置付けよう！

JES
Just Evidence Shoes

日本教育シューズ協議会

足元からの健康教育“足育”

<http://www.jes.gr.jp>

「足育」パンフレット - 足育指導資料 -

(公財)日本学校体育研究連合会は、多くの児童生徒が足のトラブルを抱えていることに対応するため、平成23年度から足育についての研究をスタートしました。

足育指導資料作成委員会を設置し、児童生徒の足の健康について、その発達段階に応じた適切な指導のあり方を、体育科運動領域と特別活動の学級活動を中心として、授業を通じた実践的研究を行ってきました。

その成果をもとに「足育」パンフレット - 足育指導資料 - (資料DVD付)を作製し、平成25年11月14日に東京都で開催された、第52回全国学校体育研究大会で発表・配布されました。

私達JESは、足育事業共催団体として協力しています。「足育指導資料」は学体連HPよりダウンロード出来ますので、ぜひ、ご活用下さい。

「足育」パンフレット 目次

I 子どもの足と靴その現状と課題

- 1 なぜ今、「足の健康教育（足育）」が必要か？」
- 2 子どもの足と靴の実態
- 3 子どもの足と靴の知識
- 4 今、何をすべきか?! <3つの提言>

II 足育の概要

- 1 足育の考え方
- 2 足育のプランニング
- 3 研究の内容
- 4 足育の目標

III 実践事例

- 1 「うご☆たのじまであそぼう」 体育科 1年
- 2 「正しい姿勢 歩き方と靴の履き方」 学級活動 1年
- 3 「土ふまずの役割」 学級活動 4年
- 4 「足を元気に ぴったりの履き」 学級活動 5年

IV 資料

- 資料 -1 学級活動（低学年）で活用する紙芝居
- 資料 -2 簡易足計測器
- 資料 -3 フットプリンター
- 資料 -4 足型データ
- 資料 -5 足指体操
- 資料 -6 DVD 収録の教材



『足を変えれば、動きが変わる』



『足が変われば、明日が変わる』

『足育（あしいく）』の授業から

みなさんと共に、明日の子どもたちを足元から考えていきましょう！

「足育」パンフレット - 足育指導資料 - : 発行者
公益財団法人 日本学校体育研究連合会
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
TEL.0-3465-3954 FAX.03-3465-7464
URL <http://www.gakutairen.jp/>

「新たな課題に向かって」 会長 本村清人



公益財団法人日本学校体育研究連合会は、文部科学省はもとより各都道府県を総括代表とする学校体育研究団体等との連携

協力を深めつつ、賛助会員のご支援をいただきながら、充実発展を期しているところです。会長として改めて感謝申し上げます。次期学習指導要領の改訂について1年前倒しをする、そのため中教審をこの秋には立ち上げるとの情報、報道です。また、次期改訂に向けて、国立教育政策研究所でははやばやと「21世紀型能力」が議論されています。現段階では、「21世紀型能力」を「基礎力」、「思考力」、「実践力」、「基礎力」、「思考力」、「実践力」から構成されるとしています。当初、また「〇〇力」と訝った

ところですが、基礎力に情報リテラシーを加えていること、実践力を「21世紀型能力」の一つとして位置付けていること、その実践力として人は何を目指し何を大切にして行動するかという「価値の内面化」をあげていることなどから、これまでの「生きる力」をさらに発展させるうえで示唆に富む内容だと考えます。

2020年の東京五輪開催に向けて文部科学省の外局として「スポーツ庁」を2015年には発足させる動きも現実になってきました。現在、学習指導要領における体育の基準を定めているのはスポーツ・青少年局ですが、それを初等中等教育局にもつていくのではなく、「スポーツ庁」で体育、地域スポーツ、競技スポーツを一体的に充実を期していく方向性も定まってきました。

各地域及び学校現場では、中堅教員の不足が授業づくりと若手の教員を指導し育てるという視点から重要な課題としてあげられています。これまでの良い授業づくりを継承しさらに発展させていくうえで、中堅教員の指導力が極めて重要です。そのため学体連としての一層の支援、加えて顕彰制度も必要ではないかと考えます。

今回の会報では、長良川国際会議場を中心として行われます第53回全国学校体育研究大会岐阜大会の内容・見どころ等とはとより「これからの学体連全国大会に期待すること」とする座談会も紹介しております。

多くの方々のご参加と積極的な研究協議で大会を盛り上げていただきたいと存じます。

表紙にある学体連ロゴマークについて



(財)日本学校体育研究連合会

上部の円は幼児を、それを受ける形で3つの弧が描かれている。小さな弧から順次、小学生、中学生、高校生を表示している。幼児・児童・青年がしっかりと大地に足を踏んばり、両腕を高くかかげて、生き生きと運動している姿をイメージすることができる。子どものあり得べきシェーマを発展的系統的に象徴している『学校教育のシンボリズム』ないしシンボシエマ。図柄は紫紺の地に白抜きである。(会報第28号浅田隆夫理事長(当時の役職))

〒151-0052 東京都渋谷区神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
公益財団法人日本学校体育研究連合会
電話03-3465-3954 FAX03-3465-7464
発行者：本村 清人
発行日：平成26年10月24日
mail: gakutairen@msb.biglobe.ne.jp

目次

・会長挨拶	1
・座談会	2
・全国学校体育研究大会近年度開催地紹介	15
・第52回全国学校体育研究大会東京大会を終えて	16
・第53回全国学校体育研究大会岐阜大会開催にあたって	17
・岐阜大会分科会の見どころ	18
・全国学校体育実技指導者講習会について	20
・平成26年度 足育(あしいく)の推進について	22
・平成24年度賛助会員(個人)一覧	31
・平成25年度賛助会員(団体)一覧	32

座談会

日時 平成二十六年七月二十七日(日)午後二時から
会場 公益財団法人日本学校体育研究連合会事務局

テーマ 全国大会から見える、学校体育の課題とその対応について

今年度岐阜大会に臨むに当たって、過去三年間の全国大会を動かしてきた先生方が大いに語りました。その地域に与えた功績とは何か、また、こうすればさらに充実したのではなかったか等の思いが、岐阜大会へのエールとなることを期待します。

後藤副会長

《挨拶》

本日は、これまでの全国大会開催及び今年の岐阜大会において、特に研究内容の面で重要な役割を果たされた先生方にお集まり頂いております。お忙しい中お越し頂き本当にありがとうございます。

本日は、その経験に基づいて今後全国大会の望ましい姿についてお知恵を拝借し、それを全国に提供する、そういう趣旨でございます。どうぞ、今後の大会の在り方を模索するための忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

司会 菅原理事

《座談会の進行について》

どのような思いで大会を行われたかこれを第一段階とし、第二段階では「どうなりたかったか」と「こうすればもっと充実した大会になった」というような話にしていただき、折々岡出先生は全ての全国大会に関わっておられますので、アドバイスやその時に考えていた事なども頂きたいと思えます。

では、はじめに長野県の佐藤先生からお願いいたします。

《長野が全国大会開催で得たこと、全国大会開催に向けて伝え

たいこと》

長野県 佐藤先生

長野県の佐藤と申します。学習指導要領の完全実施を翌年に控えて福岡大会が開催されましたが、体育的学力ということ キーワードに、知識・技能・態度・自己判断という指導内容をいかにバランス良く身に付けさせるかを大切にしたい授業実践が非常に参考になりました。具体的に申しますと、中学2年生の女子のソフトボールの授業で学習した事がゲームの中で生かされて、状況に応じたプレーの判断を高めている生徒の姿を見ることが出来ました。知識として分かっ

た事を、技能として出来るということへ展開していく学習によって、更に技能を高めていく姿や柔らかな表情で友達と関わり合いながら楽しく学習する中にも、真剣に一人ひとりが学習課題に従事している姿から長野県の体育学習で求められている方向性を示していただいたような気がしました。

司会 菅原理事

大会の内容はどんな内容でしたか？

長野県 佐藤先生

研究の視点としては、一つ目

に発達内容の明確化、二つ目に指導内容の習得を目指す教材作り、三つ目に指導の在り方。指導内容の明確化について曖昧であった指導内容を、より明確にしていくように試みました。例えば、学習指導要領5・6年生の「ハードルをリズムカルに走り超える」という指導内容につきまして、リズムカルにやるためには何がポイントとなるかを運動学的にも更に分析し、「着地後にスムーズに次の一步を踏み出せる」ということに着目して、指導内容をさらに焦点化して授業づくりをしてきました。

座 談 会 出 席 者



杉並区立桃井第三小学校長

末永 弘先生

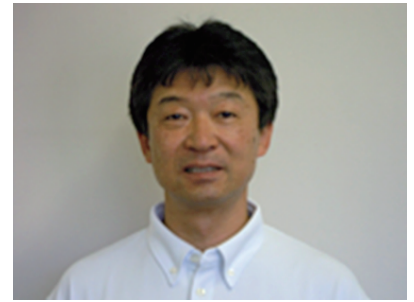
“東京大会事務局次長研究部長”



札幌市立もみじの森小学校教諭

道佛智志先生

“北海道大会研究部員”



小布施町立小布施中学校校長

佐藤厚彦先生

“長野大会長野県教委大会
統括責任者”



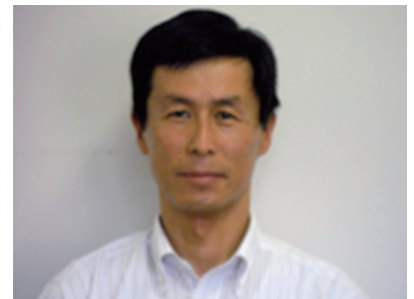
学体連理事 東京福祉大学教授

菅原健次先生（司会）



学体連理事 筑波大学体育系教授

岡出美則先生



岐阜市立長良中学校教頭

辻 伸之先生

“岐阜大会研究部主任”

司会 菅原理事

それをやってみて子供達は変わりましたか。

長野県 佐藤先生

そうですね、技能の高まりを「楽しさ」と取る子供が出てきました。

司会 菅原理事

《全国大会の充実策》

どんな所が全国大会をしていく上で改善できますか。

長野県 佐藤先生

長野大会が開催された平成23年度は、新学習指導要領が小学校で完全実施、中学校では完全実施を翌年に控え、いかに学習指導要領の趣旨に沿った指導が出来るかが大きなポイントだったと思います。長野県としては、学習指導要領の趣旨を理解した授業が多く見られたのが、その年に開催したメリットだったと思います。

司会 菅原理事

全国大会をやったお陰で、学習指導要領の趣旨をきちんと踏

まえた展開が長野県全体で開けたというのは、良い収穫でしたね。

長野県 佐藤先生

ただ、活動の楽しさだけではなく、やはり体育的学力・技能・態度・知識が高まったことにより、子ども達はより楽しさを得ることができるようになりました。

司会 菅原理事

今後、全国大会をしていく上で、どんな点が改善のポイントになるでしょうか。

長野県 佐藤先生

福岡大会からは運営面で非常に多くのノウハウを参考にさせていただきました。他方で、研究面では研究の趣旨と成果の関係について具体的引き継ぎがあると、研究の深まりというのも出てくると感じました。

岡出理事

今、言われたことってというのは、その成果物を見て帰るだけだと一瞬で消えてしまうということですよ。しかし、その研究成果

を生み出された手続きが分からないというお話だと思います。

その意味では、成果を保証する授業の手続きを共有していくことが大切になります。そのため、授業の手続きをパッケージとして提案することが試みられる。しかし、教員の力量を高めていくには、実際に授業を行う教員が、それらのパッケージで示された手続きの意味や根拠を理解し、その適否を自分で判断出来るようになっていくことの方が大事だと思います。

司会 菅原理事

研究を進めて行く中で困ったこと、それを克服するためにとった手続きの根拠や意味が、外には見えないことですよね。

長野県 佐藤先生

そうですね。

《北海道が全国大会開催で得たこと、全国大会開催に向けて伝えたいこと》

司会 菅原理事

それでは、北海道は長野から何を学び、何をしようとしたの

かお話しをして頂ければと思います。

北海道 道佛先生

北海道大会は、「未来へつなぐ、健やかな心と身体を育む体育学習の充実」授業から日常へ 授業から未来へ」を研究主題に取り組みました。長野大会から学習指導要領の指導内容を明確にしたり、評価の在り方を工夫したりしている所が、非常に参考になりました。運営に関しても、皆さんの動きから肌で感じて、北海道に持ち帰る事が出来ました。「人を育てる」という話に繋がると思うのですが、北海道は有難い事に、平成に入ってから10年位毎に全国大会を行うことができています。こんなに恵まれた都道府県はないと思います。北海道では、平成2年と14年に全国大会がありました。平成2年の全国大会で授業者の先生方を中心に全国大会を経験した先生方が、平成24年の全国大会では校長先生になられていて、事務局長や研究部長として、今回の大会を運営面で引っ張って頂きました。また、平成14年の全

国大会で、授業をされた先生方が今回の全国大会では、研究内容面でリードしたり授業者を支えたりするような役割になっていました。過去の2回の成果がノウハウとして、蓄積されていました。過去の2回の成果がノウハウとして、蓄積されていました。

た所が大きかったと思います。研究内容面では、教材の開発や教材の工夫の在り方、課題解決的な学習というところを大事にしました。北海道の子供の体力というのは、なかなか厳しいものがありまして、そのような面から生涯スポーツに繋がるような教材開発の在り方という事を考えました。また、学習指導要領が小学校では前年度の平成23年から全面实施という事を、中学校では平成24年から全面实施という事で、学習指導要領の意図をどのように授業で表現していくかという事が大きな課題となりました。見所と致しましては、一日目に岡出先生がコーディネーターとして行ったシンポジウムでした。テーマは、「指導と評価の一体化を目指す授業づくり」だったのですが、その中でも大きく話題になったのは、思考・判断の評価です。今後は思考・判断

の評価等について、更なる実践・検討が必要ではないかと考えています。

司会 菅原理事

その他、取り組みや研究の進め方など付け加えることはあります。

北海道 道佛先生

凄く良かったと思ったのは、学習指導要領の作成に携わっていただいた岡出先生や白旗先生に何度も北海道に来て頂き、学習指導要領について、どうして今回の改訂でこのようになったのかという経緯などについて教えて頂くという事が、プレ大会などを通して非常に勉強になったと感じています。

司会 菅原理事

運営面は、如何でしょう。

北海道 道佛先生

北海道は広いので、実際に授業を公開するのは、札幌を中心行いましたが、全道各地の先生方に発表して頂きました。全道各地の先生方が自信をもって実

践を発表することができたという成果が上がりましたが、運営面で、もつともつと密に連絡を取れば良かったというように思います。

司会 菅原理事

道内の連携の部分については、これから検討していかなくてはいけない所なんではないでしょうか。

北海道 道佛先生

これから、またよりよい連携を検討しているところです。

司会 菅原理事

岡出先生、北海道を見られて、何か感じておられるような事ありましたら。

岡出理事

今最後に言われたように北海道さんは、札幌だけが太ればいいと思っていた訳ではありませんでした。長い時間を掛けて、札幌以外の方達に常にそこに絡めるような試みをされて来ているという事は、大事な事なんだと思います。



《東京が全国大会開催で得たこと、全国大会開催に向けて伝えたいこと》

司会 菅原理事

東京の方の末永先生、いかがでしょうか。

東京都 末永先生

まず、10年おきに全国大会が来るっていうのは、ある意味非常に羨ましいと思いました。東京は33年振りの開催だったので、もう当時の事を知ってらっしゃる先生方がご退職され、運営等についてのHOW TO的なものが残っておらず、その所がやはり今回の一番の課題になりました。他方

で、北海道大会では、福岡大会と同様に、やはり児童・生徒の実態から、まず入ってきていると感じました。また、児童・生徒が学習内容をきちんと身に付ける為には、どういう仕組みを組んでいくのかに取り組まれているということ、そしてそれぞれの実態に応じながら、あるいは学校や地域の実態に応じながら取り組んで行くことの大切さを一番大きく学びました。東京の場合には、まず学習指導要領の改訂の趣旨を生かしているということ

で、指導すべき内容を明確にしていく、そしてそれを幼稚園から、高等学校までどういうような系統性の中で考えて行ったら良いかを考える事が一つでした。二つ目としては、体力が徐々に高まっている傾向にありながらも、まだ不十分な所がある。そこを、どう体育の授業の中で、日常化の中で、取り組ましていくかという事がありました。そして三つ目としては、小学校体育研究会、中・高等学校、特別支援学校の保健体育の研究団体の連携を図ることがありました。そのため、どの校種に於いても取り組みやすい全

体の主題として、生涯に渡って運動に親しむ資質や能力を身に付ける体育学習を設定し、それぞれの校種で、また校種別の主題を設定しました。研究内容については、発達の段階を重視した全体計画の作成が二つ目、二つ目が課題解決的な単元計画の工夫、三つ目が規準を明確にした評価の実施としました。それは北海道の大会も長野の大会も続けられてきた内容に非常に深く関わってくる部分ですが、今回特に力を入れたのが、いわゆる単元計画でした。身に付けたい事を明確にして、それをどの様な形で身に付けて、それがどうできたのかをきちんと評価できる、評価計画と指導計画も一緒にした単元計画の作成に取り組みしました。そして、それが絵に描いた餅じゃなくて、できない子には積極的に先生が何らかの手立てを講じていき、その取り組みの中で、子供達ができるとか、分かったとかいう喜びを味わえるようにしていきたいと考えていました。見所としては、その内容が実際に児童や生徒の姿となって現れる所を見て欲しいということ、単元

計画を、一つの東京のスタンダードとして作成したことです。

司会 菅原理事

末永先生は、研究全体をまとめてきた方です。各校種間の連携をどう図っていくのかという点で尽力されました。それぞれの校種からまとまったものが末永先生の所に集まる。その温度差を埋めるのに大変な苦労をなさった。今後は五つの校種間がこれから先どんな風になっていくのでしょうか。

東京都 末永先生

はい。最初の頃はそれぞれの校種の中での拘りがあり、なかなか上手く噛み合いませんでした。しかし、だんだん顔見知りになつて、様々な話しがぎつくばらんに少しずつ言えるようになっていきました。やはり、まず集まって顔を突き合わせて色んな話を、東京大会を成功させようという方向に向けて取り組んで行く事が、非常に大きな連携の一つになつてきたと感じています。単元計画とか評価にしても、やはり校種によつて全然捉え方が違いまし

た。そこをどう統一化していくかと最初は思いましたが校種の違いもあり、なかなか統一しきれませんでした。しかし最終的には児童・生徒が生き生きと活動している具体的な姿とか、どういう力を身に付けさせたいのかだけは明確にして、実際の学習活動に則した評価規準をどう授業の中に落とし込んでいくのかについて話をしてきました。また、それぞれの校種が関わった結果、小学校は中学校の体育研究会に行こう、中学校は高等学校に行こう、あるいは小学校の研究、幼稚園の研究の連携は考えよう、中学と連携を考えようという、繋がりを随分意識して研究が進むようになりました。やはり顔馴染みになつてきた事が、様々な話ができるきっかけになつてきました。今後ともそれを継続していかなくらいけないと思っています。

司会 菅原理事

岡出先生、校種間の連携については、いかがでしょう。

岡出理事

例えば小学校先生が幼稚園の

子供さん達がどういう活動をしているのかを見た事が意外に無い。幼稚園の先生も小学校がどうなっているのかを殆んど見た事がない。同じ事が、小学校・中学校、中学校・高校で起こります。そのため高校の先生方は生徒さん達を見ると「なんで、君たちはもつと学習してこなかったんだ」と指摘し中学校の先生方は「小学校の先生は、どんな指導をしていたのか」と言われる。小学校の先生方は「幼稚園の時、もつとやってくれば、もつと良かったのに」と言われる。その結果、責任の所在がごんごん、ごんごん下に行く。そして、そこに育つまでに子供さん達が何をどのように学習しているのか全然分からない。あるいは、自分達が育てた子供さん達がやがてどういう風になつていくのか、なかなか見れないままに、授業をしているのが、現状だと思っています。逆に中学校の先生方が、幼稚園の授業を見に行くと、そういう類はものすごく役に立つと言われますよ。例えば、褒めるつていう事に關してです。そうすると、見に行かれた人が、あつこいうやり方

がやつた方がいいと思い、自分の授業で試される。先生の行動の仕方としては、下の段階のものを見れば見るほど、多分先生としては学べる所結構多いと思います。で、他方で小学校の専科の教員を入れた方が学校が上手く回るんじゃないか、体育授業がもつと充実するんじゃないかって言われる方がいますよね。で、良い所と悪い所があります。そういう意味での交流は、やつぱり大事だろうなと思います。

《岐阜が全国大会開催に向けて伝えたいこと》

司会 菅原理事

辻先生、今年の全国大会は岐阜です。今までの話しも踏まえながら、岐阜の見所などお話しください。

岐阜県 辻先生

お話しを聞かせて頂きながら、大会の運営面でも研究面でも困っている事が、過去のそれぞれの大会の中でも同じように言われていたという事を改めて感じています。岐阜県は第5回大会以来の開催なので、もう40数年振り

の開催になります。この間、それぞれの校種での研究は随分進みましたが、校種をまたいで岐阜県全体でやっていくのは、久しぶりになります。そのため、まずその組織を立ち上げることからスタートしました。幼稚園から特別支援学校までが揃ってやる会議を何回か行ってきました。しかし、具体的にその研究の中身についての交流はなかなか出来なかつた所があります。そのため、幼稚園から特別支援学校までの連携を今後も継続していけるような組織を作っていく事が大事だと感じました。ただ、岐阜県では、小学校と中学校は教員の異動が活発に行われています。小学校と中学校がどんな研究をしているのか、どんな実践やっているのか、小・中のつながりを中心に岐阜県の大会を見て頂けるのではないかと思います。実際両方勤務した者も沢山いますので、小学校の学習を生かしながら中学校へ更に発展していく事が、見て取って頂けることを願っています。岐阜県の大会では、五つの具体的な研究内容を示しています。体系化された指導計画を作成する

ことや運動の楽しさを味わわせる場の工夫、教材の開発、技能の向上に結び付いていく思考・判断を高める工夫、仲間と相互に援助し合つて活動する学習集団を育てること。そして、指導に生かしていける評価の在り方です。それぞれの12の分科会が当日授業を公開させて頂きますが、今言った五つの研究内容の中のどこに力を入れているのかを明示して発表をしますので、そういった面を是非見て頂けると有難いと思っています。

校の授業を両方見据えた仕事が出来るといふ話がありました。岡出先生はどうお思いですか。

岡出理事

岐阜は岐阜ですつとやって来られた蓄積があり、自分達がやってきた事と、新しい要領でリクエストされているものと摺合せの段階を越えて大会を迎える状況になつたと思います。各々の県が同じような現象を経験されているとは思っています。全国大会を開催すると自分達がやっているものつていうのは、何をやったのかつていうことを自覚させられることになる。

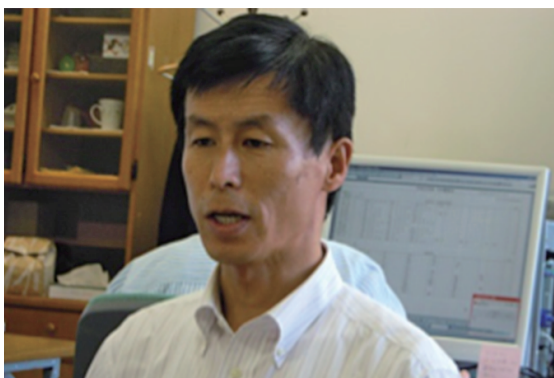
司会 菅原理事

岡出先生、東北地方では県同士で人事交流をしているような所がありますよね。

《全国大会の開催と次世代の教員の育成》

岡出理事

今茨城の教員とか奈良の教員とか福井に人事交流で一年行かれています人がいます。一年経つと戻ってくる。そういう人たちは、



司会 菅原理事

岐阜県の場合には、小中学

自分達の県のやり方と違うやり方を、また持ち帰って来る事になります。しかしその人たちは次どういう貢献を期待するのか、その人たちの育て方も考えた人事システムであることが重要になります。

司会 菅原理事

全国大会を1回経験したのち例えば東北地大会、関東大会というような企画はできないでしょうか。

岡出理事

この全国大会の開催システムは、やりたい所が手を挙げれるシステムになっています。一応ブロック制にはしていますが、割り込む事は認めている訳ですね。だから、やりたい所が「はい。私達やりたい」という風に言えば、実際には出来ます。岩手とかは、逆に言うとその風に使われたんですよ、自分の所の県の人材を育てて行くのに外からのイベントを持つてきた方が、色んな事をやり続ける人達が育っていくので、苦労は多いけどもそれをやる事に意義がある。岩手は、中学校

が体育の教員が一人つていう所が結構多い。そこで人を育てて行くとする、学校さんだけに任せていくんでは、うまくいかない。なので、結構声掛け合ったりするんですね。それによって、孤立化しないで、授業をちゃんとやりたいつていう人が育っていく。そういう事は多分考えられていられる所だと思っています。他方で、先程からずっとお話しに出ているように、幼稚園から特別支援学校までを繋ぐような組織を持っている県は、基本的に無いですね。でも、この全国大会を受けてしま

たい所は、いくらでも出来ます。それは逆に言うと、その各々の県の事情で、幾つかのそういう大会を受ける事によってもっと次のステップにのぼれるのではないかと思われる所は、そういう風に舵を切られているんですね。学体連の本部としてもちゃんとサポートしないといけない所だと思っています。で、そういう話しになると、宿泊施設や学校間の移動時間とかがどうしても問題になる。そのため市町村単位で見えて行く、開催できる所は限定されていく。

《学習指導要領の趣旨達成に向け、各県が独自に試みてきた研究をどうのよう活かししていくか》

司会 菅原理事

それぞれの県で、ローカル色としてはどんなものを出そうとしたか。

岐阜県 辻先生

岐阜県は、前回の大会以降、小学校と中学校が連携して研究を進めてきました。運動の支えになつていく集団を育てていくことで、子供達により良い運動の

習慣や技能を身に付けさせていくことが出来る。そのために、運動をどう教えていくか、また、学習をしていく集団をどう育てていくのか、この二つに視点を当て

て研究を進めて来ました。今回の大会開催に向けて研究を見直してみると、自分達が進めてきた研究が、最終的には学習指導要領に示されている観点に即した力を身に付ける事に結び付くことを改めて確認しました。それまでは、集団をどう高めて行くかを一生懸命研究してきてはい

たのですが、集団を高める事は結果として一人ひとりの望ましい態度であるとか、あるいは集団で活動する事によって、(お互いの考え方や見方を交流すること)思考・判断が高められていくとか、そういった事にもう少し明確な意図を持つて取り組む事が必要だったという事を、改めて確認する事が出来ました。今回の発表の中でも、これまで岐阜県が取り組んできたものを、一つの手段として捉えながら、最終的に学習指導要領に示されている内容をきちんと一人ひとりに身に付けさせていく、そんな授業や研

究を皆さんに見て頂ければと考えております。

岡出理事

岐阜は、学習する集団を育てていくことに拘つてこられました。同じ時期、奈良でもはそういう事に取り組まれてきた人達がやっぱりおられました。しかし、提案される先生たちがいても、それを実行していける組織を持っていない所は、その研究は、なかなか継続はしていかない。他方で、各々の県内の発表会で、そこだけで通じる言葉が作られていきますよね。しかも、外の人の目にさらされる事が無くなつていく。その結果、各県で、結局結果的に言うともみんな同じことをやっているように見えるのに、使っている言葉が違うから、なんか全然別のものが動いているような印象を与えてしまっている事がある。そのため、自分たちが行つてきたことを二度人の目にさらし、外の情報と自分達が今までやつて来られたものとを照らし合わせてみると、自分達のやつていたことの短所、長所が見えてくる。しかし、同時に、この過程では授業の手

続きが不明瞭であることが確認されたり、その手続きがうまく伝えられていないという問題も浮かび上がってくる。同じことは長野さんにも見られた。

司会 菅原理事

学習指導要領を見据えながら自分達の財産を検証をし合う意味でも、全国大会の価値はあると思います。東京の、末永先生、如何ですか。

東京都 末永先生

私の方は研究の内容よりも、研究組織の特徴について御紹介させていただきます。例えば、小学校の場合には、東京都小学校体育研究会がありまして、11の領域をもっています。体づくり運動から始まって、保健、そして体育的活動までの広がりがあります。体づくり運動においては、さらに低学年部会、中学年部会、高学年部会に分かれています。そして、それぞれの領域部会が全体の研究主題を受け、領域部会の研究主題を設定し、研究を進めて行っています。さらには、各領域部会が実証授業を行い、多

摩地区の発表会、最終的に区部の発表会を行っています。この研究の進め方をベースにしながら、今回の小学校に於いては、会場校と領域部会が一体となって研究を行ってきました。中学校も保健体育研究会がベースになりながら、研究を進めてきました。高等学校も同様かと思えます。そうやって、今まで自分達が全体テーマを受け、領域部会の研究主題を設定しながら研究を進めてきたものを、今回皆さんに改めて示し、取り組んできた研究に対する評価を伺うこととしました。私、岡出先生の話しで、なるほどなあと思ったことは、それぞれが皆同じ事を考えているのですが、表現の仕方が違うので、違うものと捉えられてしまうことがあると思います。それならば皆で同じ様な表現の仕方をしていった方が、もつと研究の内容がお互いに分かり易くて、共有化出来るのではないかなと感じました。ややもすると、研究で目玉を出すために何か言葉を新たに作って、それが目玉かの様に研究を進めて行ってしまう傾向も無きにしもあらずだからです。今回の東京

大会では、表現の仕方についてはある程度共有化して、共通理解を深めていくことができました。



司会 菅原理事

共通理解をしながら言葉を統一していく意味でも全国大会の意味合いはあります。東京の場合は、小学校体育研究会というような所がベースになりながらやって来た。北海道、如何でしょう。

北海道 道佛先生

まず小学校の子供達が体操着ではない。しかし、北海道の課題解決の姿に独自性があると思

います。それは、運動自体の課題解決ということでしょうか。例えば跳び箱では、「どうやったら跳び箱を跳べるか」という運動のコツを皆で考えながら授業を進めて行くという所が大きな特徴だと思います。他県の授業を見ると、個々やチームの課題解決に重きを置いているところが違うように思います。それは、全国大会の分科会でご指摘されたりしたので、研究の流れとしては勿論今まで大事にしてきた運動自体の課題解決というものを大切にしながらも、一方で子供達

と体育的学力の保障を重視してきました。長野県は、特性に触れる楽しさ、要するに楽しい体育との関わりが非常に強い県でした。その成果と課題等も踏まえつつ、生涯スポーツを志向する目標や理念的には変わりなく、指導内容の系統性とか明確化を持たせたものが新学習指導要領なので、「楽しさ」を大切にしつつも、より指導内容が明確な授業づくりをしていきたいと思います。このことになり、「楽しさ」と「体育的学力」のバランスがとれた授業づくりということが研究を重ねてくる中で明らかになってきて、それを授業実践として発表できたことが良かったと思っています。

一人一人の課題解決や、子供自身に立ち返るような研究の方向性で進めている所です。全国大会後、北海道の研究主題も変わりました。「個の自信を高める体育学習の充実」というテーマで、一人一人の自信を高めていくような授業の在り方に舵を切っている所です。

《今後の大会を見据えて》
岡出先生、これからの学体連の全国大会の在り方について、どんな視点を持てば良いですか。

司会 菅原理事

佐藤先生どうぞ。

長野県 佐藤先生

長野県としてはやはり楽しさ

岡出理事

この全国大会を日本以外で開くのはちょっと難しい。どうい

事かと言うと、教員が自分でやっている授業を外部の人に見てもらうという形式ですよね。それは多分日本以外でやると嫌がるんですよ。批判を受けるためです。そういう批判を嫌がると、やっぱり見せようとしなない。多分、日本の中にいる人達からすると、自分達がやって来た事は当たり前なので、あんまり気にもしていない。しかし、アイルランドの人が言っていたのは、例えばその教育委員会の人に来てコメントするとかかもしれないけれども、本当に人の目にさらして、皆でディスカッションやるような事は、なかなかやらないで、あるいはやれないという。アメリカの人が来て、日本の公開授業に連れて行って見せた事があるんですけど、やっぱり信じられんと言っています。何で授業を多くの人に見せるような事が出来るのかという話になる。そういう観点からすると何故私達はこの大会を継続して実施出来るんだろうという事が、一つ論点にはなると思うんですよ。また、日本全国教員養成系の大学の教員の日常的な学校現場への関わり方が問題に

なると思います。小学校から高校までという話だけじゃなくて、大学も含めてその授業の資質の改善について考えて行こうとすると、私達どういふ事が出来るんでしょう、あるいは皆さんはそういう所に対して、どういう期待を掛けられるんでしょう。それはやっぱり、どこかでディスカッションする必要はあるんだろうなと思います。そういうものを継続させて行く時に、大学、特に教員養成系の大学はどういう関わり方を本来すべきなのか。どういう事を皆さん期待されるのか、そういう事を伺ってみたい気がしますね。

司会 菅原理事

岡出先生から大切な事を二つ頂きました。一つ目は、全国大会を継続していく上で、求められる事、それが多分人材の育成っていうような事にも繋がって行くというような事だろうと思います。もう一つは、教員養成系大学に期待する事、大学の先生方に期待する事を述べて頂こうと思います。

岡出理事

一つだけ、言い忘れるとまずいので。全国大会は、誰でも参加する機会が提供される。それは、自分達で直接授業を見て、論議が出来る窓口を開いているのが、この大会だと思っています。なので、その教員をいかに育てるかっていう全体のシステムの中で言うところ、こういう大会はどういう役割を担って行った方が良いいのかについても、皆さんから伺えればと思います。

司会 菅原理事

全国大会が担う役割っていうような視点も加えながら、人材育成っていうような事に繋がりがらという事なんだろうが、この大会を継続して行く意味は何処にあるのかという事。その三つでお話しが出来ればいいのかと思います。

後藤副会長

先生方の話しを伺って、その各県の特徴というお話しになりますけども、それって凄い大事だと思ったんです。しかし、その対極としてまあグローバルって事が

あると思います。学習指導要領はまあ日本全国区なので、国の中ではグローバルな視点で作られている。そういう観点から指導内容も指導方法も書くようになって来ますよね。そういう具体的な視点、内容から見てこう実践がどうだったかという事を、もつと小中高の連携の中であるいは各県の中心となっている都市とその周辺の町との連携の中で、いわゆるグローバルな視点に焦点を当てて、突っ込める所はないかなあという気がしました。

司会 菅原理事

それでは、佐藤先生の所から行きましょう。教員養成系大学っていう事は、これから先将来的には導入されてきた場合、一体そういうったその教員養成系大学の導入っていうような事に、何、どんな事を私達は期待したいのか、そんな視点でお願いします。

長野県 佐藤先生

長野県には信州大学に加えて、松本大学にも体育科の教員養成課程ができて、その大学の先生方と研究面や体力向上面

で学校現場の先生方がコラボレーションしながら取り組んでいきます。大学と学校現場で先生方がお互いに情報交換をしたり共同研究をしたり、または大学の先生方に研究会で指導をいただくというような機会も多くあります。全国大会でも信州大学の二人の先生方に指導助言者として分科会で指導をいただいたりしました。信州大学や松本大学の体育科の教員養成課程の学生も多数全国大会に参加していただき、この大会をきっかけに各地域や県レベルの規模の小さな研究大会にも学生が参加するという現象が出てきています。学生が学校現場に来て実際に授業を見て刺激を受けたり、教師になったときの役に立てばよいと思っています。

司会 菅原理事

それでは、道佛先生。

北海道 道佛先生

北海道の教員養成系の大学というところやはり北海道教育大学だと思います。北海道教育大学は、札幌・旭川・函館・釧路・岩見

上です。

司会 菅原理事

身近にいます、そういう事が出来ますよね。それでは、末永先生。

東京都 末永先生

今回、一番大きかったことは、東京学芸大学附属竹早小学校が授業公開をしたことです。竹早小学校がやってた授業の内容は、先ほどもちよつとお話しさせていただきましたが、小学校体育研究会のゲーム領域の研究と一緒にコラボレーションしながら、東京学芸大学附属竹早小学校で実施してきました。今後それがもっと他の附属小学校に広がって行けばいいかなと思っています。さらには、このような取り組みを継続していくことによって今後は、国立だけでなく私立の養成系の学校にも広がって行く可能性はあるだろうと思っています。

沢と五か所にあります、五校で一つというような特徴があると思います。例えば、札幌校に若い先生がいらして、積極的に北海道の研究大会に関わっているという事があります。全国大会でも、指導・助言の先生も北海道教育大学にいらつしやいましたので、専門家としての目から見えて頂くなどの関わりはあります。今後は大学の先生と一緒に授業づくりが出来たら良いのではないかと思います。実際に附属札幌小中学校では、授業づくりから話し合っていると聞いておりますので、そういう動きをもう少し広めていければと思います。以

司会 菅原理事

岐阜はどうでしょうか。

岐阜県 辻先生

今回の大会では12の分科会で授業公開をするのですが、県内の大学の先生に5名入って頂いて5つの分科会で指導を頂いています。今回の全国大会が、幼稚園から特別支援学校までのそれぞれの実践と大学の先生とが結びつく良い機会になっていると思うので、地元の大学の先生との繋がりを、今後も継続していきたいと考えています。各校種をまたいだ繋がりについては、大学の先生がそれぞれの校種に入って頂く事で、上手く繋がっていくのではないかと思います。

司会 菅原理事

岡出先生、教員養成系の大学等の役割をどの様にお考えでしょうか。

岡出理事

大学で勤務している人達が、教員という職業に対する理解を深め学生が教員への志向性を高めていくためには何を教える必要があるのかを知るためには、教員養成に関わっている大学の関係者がもっと学校に出て行く必要があると思います。

司会 菅原理事

全国大会は、これから先も大学の先生との関わりはもっともつと深くなつて行けばいいと思いますが、岡出先生、附属小学校や中学校は、そういう意味で必ず入っているのでしょうか。

岡出理事

入っている県もあれ、まあ場合によって入らない可能性もあるんです。附属は、大学によって人事が違います。だから、採用のされ方により附属の人達の育ち方は、かなり異なります。また、附属と大学の関係も多様です。その中で皆さん手探りで関係を作られていると思います。

《全国大会はどういう人材を育てているのか》

長野県 佐藤先生

人材の育成という事に関わっては、長野県では県全体の広域の人事異動があります。第50回長野大会では長野市を中心に開催していた訳ですが、その後大会に関わった体育教師が長野県の色んな地域に異動で動くことに

なり、それぞれの地域で研究の中心になつて活躍しているということがあります。したがって、研究を推進していくリーダー的な存在となる人材が育成されたのではないかと考えます。

司会 菅原理事

若い先生方は全国大会を経験した事によって何か変化があったでしょうか。

長野県 佐藤先生

そうですね、信州大学の岩田先生が色々な教材化の研究をやられていまして、長野大会でも岩田先生に関わっていただきましたので、素材としての運動をルールや用具を工夫して、子どもたちの実態に合う易しい運動に教材化した授業が色々な地域で見られるようになり、教材化を工夫した授業実践が若い先生方を中心に広がって来ています。

司会 菅原理事

長野県の大会の時、岩田先生が中心になつて導かれた部分を、そこで一緒に研究された方が色々な地域に広がって、それが種にな

つてまた芽が出ているというよう
な感じでしょうか。

長野県 佐藤先生

そうです。

司会 菅原理事

北海道はいかがでしょう。

北海道 道佛先生

《北海道の人材育成について》

先ほど述べましたように、北

海道は10年おきに全国大会を開
催させて頂いているので、人材が
良いサイクルで回っていると思
います。全国大会の授業者に、「あ
んな風になりたい」という憧れが
あるのが、やはり大きな所だと思
います。また、全国大会迎える
にあたつて、二年間位、授業者
は多くの授業を行つて育てられま
した。一方で、他の多くの人が公
開授業を出来る訳ではありません
でした。ですから、全国大会
が終わつてからは、人材を育てる
という意味で、多くの人が授業
を公開できるように進めている所
です。また、北海道の中の札幌
の役割としては、この全国大会
で培ったものを、どのように広

北海道に伝えて行くかという事
もすごく大切だと考えています。

例えば去年の全道大会は、上川

という、富良野の方で行つたの

ですが、その授業づくりにも全

国大会を経験した人間が直接に

出掛けるといふ事がありました。

見聞きするだけではなく、直接

話し合うのはやはりとても大切

だと思います。ただ、北海道は

本当に広く、同じ上川管内とい

うだけでも、100キロぐらい離

れている場所もあります。授業

作りをするのにも2時間位掛け

て会わないといけないとか、そう

いう地理的なものもあつたりする

のです。ですから、メール等を上

手く使つて交流している所です。

司会 菅原理事

集中して育てられた先生方は、

今どのようにお過ごしでしょう

か。

北海道 道佛先生

勿論校内での中心的な役割を

しておりますし、その札幌、北

海道の研究を今リードしている

人間が育つています。自分でも授

業をやりますし、自分より若い

人の授業を支えるような立場に
立ち始めています。



司会 菅原理事

長野と共通している部分は、

芽が広がっているのですね。東京

は如何でしょう。

東京都 末永先生

今回の全国大会は、各領域部

にとつて、とっても良い刺激にな

りました。やはりこの全国大会

に向けて自分達が今まで取り組

んできた研究内容をきちっと整

理して、そして授業の中で反映し

ていくという大きな目標になり、

意欲的な取り組みにつながりま

した。特に、前年度行われたプ

レ大会ではそれぞれの分科会会
場場で本大会の流れを汲みなが
ら、学校と領域部が一緒になつて
行いました。そして、各領域が

今まで積み重ねてきた研究内容

を精査して、学校の研究の中に

入り込んでいき、学校と一緒にな

つて取り組みました。その過程の

中で、良い授業をするためにはど

うしたら良いかという議論をしな

がら、刺激を受けていきました。

実際、取り組んできた人が、そ

れぞれの地区の中で領域の研究

について、授業をし、研究を広

げて行くような取り組みも行わ

れました。また領域の部長になつ

た人が今年度は、区市町村の指

導主事になつて、今までやって来

たものを広めて行くという流れに

もなっています。やはり全国大会

をやり終えた事は、自分達の研

究内容を実践を通してきちんと

まとめたのだという大きな自信

に繋がって行きました。今後も、

それが広まっていくのだろうと思

っています。また、それぞれの部

員たちの中には、今回得た知見

を次に全国大会が東京に来た時

には、自分達が是非リーダーに

なつて生かしていきたいという

声もあがっています。そういった
意味で、一つの大きな大会を成し
遂げた時の力が、次の人材育成
に繋がっていくと思つています。

司会 菅原理事

岐阜では如何ですか。

岐阜県 辻先生

末永先生に話して頂いたよう

に、岐阜も校種の研究部会であ

るとか、あるいは開催地である

岐阜市と羽島市、各務原市が、

それぞれの研究部会で一丸となつ

て発表に向けての準備をしている

所です。単にその学校が受けてや

るのではなく、それぞれの研究部

会としての取り組みであるとか、研

修会の開催であるとか、開催県

として受けて組織の活性化が図

られ、研究の深まりが見られた

という所に成果があるのではない

かと思ひます。一方で参加をする

立場で言うとも、北海道大会に参

加させて頂いた時に、柔道とダン

スの授業を拝見したのですが、特

に若い先生にとっては、実際の

授業を沢山見たいという気持ち

があると思うんです。私も中学

校に参加させて頂いて、中学校に

つながる小学校の授業を見たい
と思ったのですが、一日目は全体
会、二日目が分科会という形だ
と、どうしても一つの学校しか見
られなくなってしまう。会場の確
保とか予算とか、いろいろな問題
があります。例えば一日目も授
業提供があつて、二日目も授業
提供がある、授業が複数見られ
る大会の運営の仕方も、可能で
あればと思います。二日間に分け
て見る事が出来るとなると、例
えば、一日目は幼稚園を見に行っ
て、二日目は小学校へ行きまし
ょうという選択も出来るように
なってくると、校種をまたいだ指
導の参考になると思います。若い
先生にとってはいろいろな授業、
先生、校種を見ることで、刺激
が沢山貰える気がします。

《全国大会の改善に向けて》

司会 菅原理事

岡出先生、如何でしょうか。

岡出理事

沢山の授業を見られたい。そ
れは必ず起こる話だと思います。
他方で研究協議会は授業をした
人達からすれば、自分の授業に

対するコメントを聞いてみたいと
か、そういう事は必ず起こりま
すよね。自分はここ良かったとか、
こういう風に変えて行った方が良
いっていうのを、いつもと違うメ
ンバーから聞いてみたいのは授業
者の方だと思うんです。他方で
文科サイドからすれば、共通し
て情報を提供してみたい。今ま
でのプログラムは、今お話ししたよ
うな幾つの要望が被つて、今の
形態をとってきているとは思わん
ですね。逆に言えば、どういう
人達を想定して全国大会を開こ
うとするのかですよ。文科は、
予算申請をされていて、形式を
変える事は、多分予算申請の在
り方を変えるかみたいな話にな
るので、一気に変えるのは難しい
と思います。協議は出来るよ
うな気はします。今のご提案に
関して言えば、各都道府県がや
っておられる形式も多様化して
いると思います。他方で教員が
意外に人の授業を見る機会がな
いと思います。特に小学校の教
員は担任持つてゐるんでそれは難し
いですよ、同じ学校にいても、
隣のクラスの授業すらなかなか見
れない。そういう意味では僕は

選択制が入った時の中学校はな
かなか面白かったとは思っていま
した。同じ時間帯に例えば5ク
ラス開くと、教員は5人一気に出
ないといけなくなる。場所から考
えると、その例えば体育館の中
で5人全部やるなんて無理なの
で、グラウンドに出て授業をやる
と互いの授業が見えてしまう。あ
の先生、あんなやり方してたの
とか、この先生こんなやり方して
たのとか、その先生方の行動を
お互いに見合いっこする結果にな
ってしまった。しかも児童、生徒
が入れ替わるので、児童、生徒
の職員室で出来るようになった
りした。そういう機会がやっぱり
学校レベルでもっと出来るかも
しれないなと思います。大学でも
各教員がやつてられることは学生
を介して情報が入ってくる。そ
うするとそれをベースにして、自
分の授業を変えてみようとかと
試みる。そこら辺が学校レベルで
改めて出来る事なんだろうとか、
そういう話が具体的に、出て
くればいいなと思います。

岡出理事

そういう点からすると、校種
を越えて見に行かれてるかと言
うと、そうでもないですよ。だ
から幼稚園の所の参加者が少な
くなるのは、幼稚園の参加者の
数の問題もあつて、だから特別
支援学校も多分そうだと思うん
ですよ。本来こういう機会だ
から、校種を越えた所に行つて
みないかというだけで、状況が変
わるかもしれません。

司会 菅原理事

まとめに入つて行きたいと思
います。最後はその他運営面を含
めながら、こんな風な所をこう
改善していくと、更に充実した
全国大会なるか。今一番感じてお
られるのは、多分岐阜ではないか
と思います。辻先生から願ひし
ます。

岐阜県 辻先生

今回岐阜の大会では、授業公
開を少しでも増やしたいと思つ
て、12の分科会の中の三つの学
校で授業を3公開します。教室
で出来る体育理論であつたり、

保健であつたり、小学校で低・中・
高という違う年齢の授業を提供
する所もあります。いろいろな
授業を見たいというニーズにも、
応えていけると思っています。今
の一日目は全体会、二日目は分
科会という形の中でも、工夫次
第では授業提供を増やしてい
く事は可能だろうと思いますので、
そんな工夫は今後もされていか
れとよいのではないかと思います。
た。うちの学校（長良中）は、
第3分科会の長良西小学校とす
ぐ近くの所で、歩いて5分ぐら
いで行ける所ですので、午前中
の授業を小学校だけでなく、中
学校も小学校の授業会場として
提供し、同時に公開します。そ
こで小中の連携もテーマにしま
が、午後の研究協議が出来る
と思うので、こういった経験を次の
大会運営に生かせるとうと思
います。岐阜も、次は何年後に
回ってくるか分かりませんので、
次の大会（広島県）へ、そのノ
ウハウをバトンタッチしたいと思
います。

司会 菅原理事

はい、有難うございました。

東京の末永先生。

東京都 末永先生

私は、全国大会で得た知見についてはきちつとまとめて、それをベースにしながら今年度からの研究を積み重ねて行く事が必要であると思っています。全国大会が終わったからまた新たな研究というよりも、その全国大会を行うまでまでに取り組んできた事をベースにしながら、次の取り組みに繋げて行くことをしていかなければ、研究は深ま

て言うことは、なかなか言い切れない部分があります。ある程度、連携が出来上がってくると、自分達が思っている事を伝えたり、相手もそれに対して反論したりするなど、意見のやり取りが出来るようになってきます。そのような事の積み重ねが、連携をより深めて行く事に繋がって行くだろうと思っています。最後に、是非取り組みとして繋げていきたいと思う事です。中堅の先生方には東京都以外の学校

では、どういう授業しているのか、どういう考え方で取り組んでいるのか、地域の実態はどうなのかというような事を知る事が、見識を広める上で必要です。先ほど、北海道の先生の話にもあったように、北海道では体育の授業は体育着を着ないでおこなっているとか、プールには屋根がついているとか、気候の違いによる事を色々知って行く事は必要だと思います。全国大会に管理職は比較的行きやすいのですが、中堅の先生を行かせて、見させること

によって、中堅教員の育成を図っていく必要性があるだろうと思っています。

司会 菅原理事

北海道、道沸先生お願いいたします。

北海道 道沸先生

《全国大会の課題と今後の北海道について》

我々自身の課題は先ほどから出ておりますような、校種間連携をもつと強化していかなければと思っています。小・中・幼稚園くらいまでは全国大会をき

かけに連携でき始めているのです

が、高校や特別支援学校とは関わりが薄くなってきたと思うので、その辺りが課題だと思っています。逆に、全国大会をきかけに他県の方と繋がっていられたのは、非常に有難い事ですし、今回このような機会を与えられて非常に有難かったと思っています。また、札幌の中学校では全国大会をきかけに、文部科学省の研究指定を受ける事が出来て、また全国との繋がっていられたということは、非常に有難い事だと思っています。全国大会自体の課題としては、分科会の時間も結構短く、十分な議論ができなかったという反省がありました。あと最後に、やっぱり全国大会をまたやりたいという声が北海道ではあがっています。私は41歳ですが、授業者はもう無理だと思うのですが、次になんか運営する側に立ってやってみたいと思っています。

司会 菅原理事

有難うございました。佐藤先生。

長野県 佐藤先生

大きく五つの事を考えております。①まずは全国大会に関わつてですが、長野県では第50回大会の時に双方の参加者参加型の大会にしたいと考えていました。そのため、シンポジウムもフロアーの皆さんに参加して頂きたいと考え、当時、コーディネーターの佐藤豊さんをお願いしました。授業研究会も全体会だけじゃなくて、少人数のグループを作つて参観した授業についての意見交換や互いの県の情報交換ができると、より参加型になって満足感がある全国大会になるのではないかと考えます。これが、一点目です。②二点目は、教科調査官や大学の先生方から、ざつくばらんな話をお聞き出来る嬉しいなという思いがあります。③三点目は、研究の継続性に関わつてです。近年度開催県の運営面での引き継ぎ会がありますが、研究面でも引継ぎ会があると、全国大会全体としての研究内容に継続性や深まりが出て来ると思います。「研究開発委員会」のような組織をつくり、年に何回か集まって開催県の研



究内容について協議することも一つの手法かと感じております。④四点目は、日本学体連という会を全国のより多くの県や体育教師に認識してもらえらる団体にすることが必要かと思ひます。例えばブロックごとの支部を立ち上げて下位組織をつくること考えられます。最初は本会が主導し、軌道に乗ってきたら支部ごとの運営に移行させればよいのではないでしようか。また、各支部の活動として、全国大会を開催しない支部ではブロック大会を輪番制で開催することも面白いと思ひます。各都道府県で実施している全県レベルの独自の研究会の開催案内をブロック内の県にも通知するだけで可能になると思ひます。さらには、ブロック大会開催県から会長、次期開催県から副会長などを選出するなどして、支部の組織づくりも必要になると思ひます。⑤最後に、五目目になります。手打先生がやられているメールマガジンですが、私の所には配信されませんが、県内の他の先生方にはなかなか行き渡りません。もし可能であれば私から県内の各地区の代表

に転送して、地区の代表から各学校の体育の先生方に再転送をさせていただくことをお認めいただければ、学体連がやっている事が全国の末端まで伝わっていくのかなと考えておりました。以上です。

司会 菅原理事

有難うございました。岡出生どうでしようか。今日の話し全体踏まえながら、今後岐阜大会を中心にしなから広島大会に向かつて、どんな事を充実させて行けばいいでしようか。

岡出理事

この間ずっと考えていたのは、やられる都道府県がやって良かったと思ひることです。そこにたどり着ける様に私達は何が出来るのかを、常に考えていると思ひんですよ。実際には授業者もある意味ストレスがかかる訳ですよ。トレーニングとして2年なり。また、福岡でいうと今、下野先生も3年前から多分そのトレーニング完全に入っていて、全国大会の3年前の所に入ってきた一年生に対して君達三年生になったらこ

ういう事するんだからって言いながら、一年目、二年目、三年目と生徒を育てていかれたりとか。それはあの人のにとつても挑戦であつたし、子供さん達にとつても挑戦だつたし。しかも、一年単位でやつてると違つて、子供さん達の育ちが良く見えるつて事だと思ひうんですよ。あの時間が長いので、ストレスも確かに高いんですけども、終わつた時には自分の成長のあかしが生徒の姿として多分直接見れる。そういう意味では、時間を掛けて人を育てて行つて、その結果、教員も変わったし、子供さんも変わった。そういう意味でやって良かったなと。その中で実際に授業をした人達以外でもサポートしてくれないと、回らない事いっぱいある訳ですよ。それはその授業者というよりも、やっぱり学校でのサポートとか、あるいは教育委員会等のサポートとか、研究会のサポートとか、そういう人達がいる中でこういうのは運営されているつていう。そういう意味でのそのお仲間が上手く育てられていけばいいのかなと思ひますし、日本の人達はそれを今までずっと作っ

て来られたんだと思ひうんです。先ほどお話ししたように、授業研究とか公開授業とか、日本以外でやるのはなかなか難しいと思ひておられる方、結構いる訳です。改めて何故私達はそれがなぜ可能で、今に至つてるんだらうつて考へると、それを可能にしてくれた先達がいる訳ですね。その中で、私達は今動いている。その財産が日本の外に向かつて多分誇れるものだらうなと思ひてるんですね。そのシステムの中で人が育つていくつていう、そういうものをもっと大事にしていきたいつていう風に思ひます。また、僕が先ほど大学の教員の話しをしたのは、授業者はなかなかデータも取れないし、それを処理する時間もなくなかなか取れない。しかし、自分のやつた事を距離を置いて見るためには、そういうデータはやっぱり必要だし、それから研究成果を読み込んでいく事はやはり必要になつて行く。大学で働いている人達は、それをもつと提供できると思ひていて、そういう事を多分これからもつとやって行く段階に入つて行くんだらうなと思ひているんですね。国のシステ

ムが色々変わりつつある中で、こういうやり方の良さをアピールしていく、あるいは理解して頂くつて事はこの本部としてもちゃんとやっていかないといけない事だらうなと思ひますね。先ほど北海道さん言われたように「俺たち、やりたい」と言われる都道府県がもつと出て来る方が良かなあという風に思ひますし、他方でやらない所はやれない事情があるはずなので、やれない事情をそのままほつとくそこはある意味沈み込んでしまふ可能性があるので、そういう所がちゃんとやれるように、サポート出来るような体制が本部として取ればと思ひます。少なくとも子供さんは日本中どこに移つても、同じ様な質の授業をちゃんと保証してもらえらる。その事には、多分日本国はお金も時間も掛けてシステムを作つて行つた国だと思ひんですよ。そういうものが、この体育の授業で確実に保証されていくようなそのシステムを、ちゃんと維持あるいは継承して行く事に関して、事業がちゃんと貢献していける事が出来れば、いいのかなと思ひますし、その為には

また色んな方にご協力頂かないといけないなと、そんな事をずっと皆さんの話しを伺いながら感じています。

司会 菅原理事

後藤先生、終わりのご挨拶をお願いいたします。

後藤副会長

大変な、貴重なご意見を頂きました、特に最後の各県から具体的なお提案を頂いた事、ありがとうございました。岐阜県がたく思っております。岐阜県さんから、一日目と二日目の両方とも授業公開するというような、大変新しい提案を頂きました。これから生かしていきたいと存じます。学体連は、実践を通して得た経験値と科学的研究成果を繋いでいく所だと思っておりますし、その際一番大事な事は、子供の事実から学ぶことと、学習指導要領の趣旨・内容の正確な把握、この二つを基盤にしていく事だと思っております。今後とも、臨床的な実践研究をお支えくださるようお願い申し上げます。

全国学校体育研究大会 近年度開催地のご案内

第53回全国学校体育研究大会（平成26年度）開催地	岐阜県	平成26年11月6・7日
第54回全国学校体育研究大会（平成27年度）開催地	広島県	平成27年11月12・13日
第55回全国学校体育研究大会（平成28年度）開催地	福島県	平成28年11月10・11日
第56回全国学校体育研究大会（平成29年度）開催地	和歌山県	平成29年11月9・10日
第57回全国学校体育研究大会（平成30年度）開催地	佐賀県	
第58回全国学校体育研究大会（平成31年度）開催地	埼玉県	

第五二回全国学校体育研究大会東京大会を終えて

同大会実行委員会 会長 古家 眞



第五二回全国学校体育研究大会東京大会を終え、一言御礼の御挨拶を申し上げます。

昭和五十四、五十五年度の連続開催以来三十三年ぶりに東京で開催された全国大会には、三、二〇〇人を超える学校体育研究者の方々が参加されました。全体会場場の両国技館と授業会場の一七校園においていただいた皆様に御礼申し上げます。

東京大会のおよそ四年前に「平成二五年度の全国大会は東京」と聞いたときに、「これは大変なことだ。しかし、きつとやりがいのあることだろう」と思ったものでした。

学体連、都教委の助言を頂きながら東京都小学校体育研究会常任理事の校長が中心となって

大会事務局が編成され、東京大会実行委員会の輪が幼稚園、中学校、高等学校、そして特別支援学校へと広がっていききました。

全国大会への参加も島根、福岡、長野、北海道と続き、東京からの参加者も毎年増え、北海道には一〇〇名以上が参加し全体会場や分科会会場で大会運営、協議会進行等を学ぶ姿が見られました。

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付ける体育学習」という全体研究主題は極めてオーソドックスであり、しかもあえて間口を広げた表現としたのは、この研究主題をもとにして、各校園種によって異なる「目指す子ども像」を十分に検討し、校園種ごとの研究主題をより分かりやすいものにするという意図がありました。

また、分科会会場ごとの研究主題は、さらに具体的に、そして運動領域も明確にして設定しやすくしようと考えました。このことにより、研究が校園種ごと

の独自の取組ではなく、全体研究主題を基盤として構造的にまた、運動領域間の連携が図られたものとなっていました。

東京大会二年前の冬、私は、運営委員会の席上、「東京大会の一年前に全ての分科会会場校でプレ発表会を開催し、授業会場の管理・運営と協議会進行の状況を互いに確認し合いたい」と伝えました。各校園の代表の方々の反応は様々でしたが、その趣旨を伝え御理解頂き、全ての会場に開催をお願いしました。

一年後のプレ発表会は、各校園種の研究会に働きかけ、どこかの会場も多くの参加者がありました。私も一七の会場に赴いて開催の御礼と進行上の留意点等を校園長にお伝えしました。

このプレ発表会が一年後の幼稚園一園、小学校九校、中学校三校、高等学校二校、特別支援学校二校、合わせて一七校園の研究発表の成功につながったと思います。全国から来ていただいた多くの皆様が各会場でお迷いになることなく、また充実した研究授業と研究協議会に参加されたのではないかと思います。

この全国大会の運営を通してたくさんの皆様のお世話になりました。文科省の白旗先生、石川先生、高田先生には、全国大会の意義と体育授業研究の必要性を継続して御指導頂き、シンポジウム、「解説」でお話を頂戴しました。

学体連の本村先生、後藤先生、友添先生、岡出先生、池田先生、菅原先生には、予算、運営、渉外等多岐にわたって御教示いただき、いつも温かい励ましの言葉をかけていただきました。

都教委、区市教委には、特に予算面での御支援と統括・指導主事の皆様の御指導を頂戴しました。また、授業研究会の講師の皆様には、事前授業や学校によつては前年度からの御指導を賜っておりまして。関係の皆様には、厚く御礼申し上げます。

長野県、北海道の実行委員会の皆様にも大変お世話になりました。何も分からないところに長野県の資料を頂いたことは、とても安心しましたし、少し分かつてきたところで北海道の方の

お話を聞くと、さらに多くのことが理解できました。そして、東京都の幼稚園長会、中保体研、中体連、高保体研、特別支援学校校長会の先生方には、校種を超えて、文化の違い、考え方の違いを超えて協力、連携体制を作っていただきましたことに厚く感謝申し上げますとともに、一七の分科会会場校の校長先生始め教職員の皆様には、約二年間にわたって、準備、運営等に御尽力頂いたことに御礼申し上げます。

また、様々な形で御支援いただいた日本教育シューズ、学研など特別協賛企業の方々に御礼申し上げます。

第53回全国学校体育研究大会岐阜大会開催にあたって

岐阜大会 会長 杉山 英一



第53回全国学校体育研究大会
岐阜大会の開催にあたり御挨拶
を申し上げます。

岐阜市のほぼ中心に位置する
金華山の山頂には、岐阜市のシ
ンボルである岐阜城が高らかにそ
びえ立っています。この城は、天
下統一を目指した織田信長公が
安土城に移る前に居城としてい
たところで、今大会の多くの会
場から眺めることができます。ま
た、その山裾を清流、長良川が
豊かな水を湛えています。こうし
た恵まれた自然環境の中で育つ
た岐阜の子供たちが、伸び伸び
と活動する姿を全国の先生方に
見ていただきたいという思いで、
平成21年度に本大会の岐阜県開
催が決定されて以来、着々と準

備を進めてまいりました。折し
も、平成23年度に小学校が新学
習指導要領全面实施、翌24年度
は中学校が全面实施、そして昨
年度からは高等学校が年次進行
により実施と、いわば学習指導
要領の過渡期に、本県で昭和41
年以来48年ぶり二度目の全国大
会が開催される重みを噛みしめつ
つ、幼稚園、小・中学校、高等
学校及び特別支援学校のすべて
の校種が連携しながら研究を進
めてまいりました。

大会初日となる11月6日(木)
の全体会の会場は、金華山や長
良川を間近に眺望できる「長良
川国際会議場」となります。午
前中は「開会式」を皮切りに、「表
彰式」、「基調報告」を行います。
「基調報告」では、岐阜県のこ
れまでの取組、とりわけ①指導
内容の体系化、②運動に親しむ
資質や能力の育成、③指導の改
善を生かす評価、に重点を置い
た説明をさせていただきます。午
後からは「解説」、「シンポジウム」、

「特別講演」を行います。文部
科学省教科調査官 高田彬成氏
より新しい学習指導要領について
詳細な解説、そして「シンポジウ
ム」では、コーディネーターの友
添秀則氏(学体連理事長・早稲
田大学教授)と全国から集まっ
た5人のシンポジストの方に、「豊
かなスポーツライフの実現に向け
て」というテーマで討論いただき
ます。全体会の最後を飾る「特
別講演」では、シドニーオリン
ピック女子マラソン金メダリスト
で岐阜市出身の高橋尚子さんに
「世界の人々をつなぐスポーツの
魅力」と題して、豊富な経験と
グローバルな視点で講演をしてい
たいただきます。

翌7日(金)には、岐阜市、
各務原市及び羽島市の幼稚園1
園、小学校4校、中学校4校、
高等学校2校、特別支援学校1
校の合わせて12校で「公開授業・
研究発表・研究協議」を行いま
す。大会主題『生涯にわたって
運動に親しみ、明るく豊かな生

活を営む資質や能力を育てる体
育授業』を具現すべく、各校の
これまでの成果を発表いたしま
す。見所としては、自己のつま
ずきや課題を見つけ課題解決を
図るための練習を工夫・選択し
たり、作戦を立てる場面を意図
的に設けたり、仲間と相互に援
助し合いながら主体的な活動が
できる集団の育成を図っているこ
とです。運動遊び、体育、保健

体育のより良い授業づくりと、一
人でも多くの子供たちが運動に
親しむことができるような手立て
を講じていけるよう、発表校のそ
れぞれが、創意工夫した取組を
展開してまいりました。

平成23年に制定されたスポー
ツ基本法第17条の「学校におけ
る体育の充実」において、「学校
における体育が青少年の心身の
健全な発達に資するものであり、
かつ、スポーツに関する技能及
び生涯にわたってスポーツに親し
む態度を養う上で重要な役割を
果たすものであることを鑑み、体

育に関する指導の充実あるいは
体育に関する教員の資質の向上
が必要である。」と記されました。
私どもは、この条文の重みを理
解しつつ、本大会に向け、御参
会の皆様に満足していただけるよ
う誠心誠意準備に当たるととも
に、大会当日には、全国の学校
体育・スポーツ関係者の皆様方
に多数来岐いただき、本県の「活
力ある学校」や「明るく元気な
児童・生徒」の姿を是非、参観
いただきますようお願い申し上
げ、挨拶と致します。

第2分科会 岐阜大学教育学部附属小学校

＜分科会研究主題＞

確かな動きと自分なりのコツをつかむ児童の育成
～発達の段階に応じた「体づくり」と「ネット型」の
系統的な指導～

＜授業の見どころ＞

「ふぞくぼう」の操作を中心とした多様な動きをつ
くる運動の「追求～活用」の様子、キャッチを取り
入れた「ふぞくっ子バレー」の系統的な指導の集大
成をご覧ください。また、子どもたちがタブレット
PCを使いこなす保健学習も公開します。

公開授業領域：体づくり運動・保健
ボール運動（ネット型）

指導助言者：岐阜大学 原田 憲一

第1分科会 岐阜市立加納幼稚園

＜分科会研究主題＞

しなやかな心と体を育むための教師の援助や環境の
在り方
～友達と一緒に、主体的、活動的に遊び、物事に柔
軟に対応できる心や体を目指して～

＜授業の見どころ＞

子どもたちが、好きな遊びを見つけて、じっくり取
り組んだり、イメージをもちながら、その世界に浸っ
たりして、友達と一緒に相談しながら遊びます。そ
の中で、体を十分に動かし、試行錯誤して遊びを楽
しみます。

公開授業領域：からだを使った遊び
仲間と楽しむ遊び

指導助言者：岐阜大学 春日 晃章

第4分科会 羽島市立竹鼻小学校

＜分科会研究主題＞

よりよい動きを追求し合い、動きの高まりが実感で
きる子
～仲間との見合い、教え合う活動を通して～

＜授業の見どころ＞

動きを高めるポイントを意識しながら、互いの動き
を見合ったり、教え合ったりすることを大切にします。
自分はもちろん、仲間の動きを高めていこうと、一
人一人が意欲的に取り組む姿をご覧ください。

公開授業領域：ゲーム（ゴール型ゲーム）
表現運動

指導助言者：横浜国立大学 高橋 和子

第3分科会 岐阜市立長良西小学校

＜分科会研究主題＞

よりよい動きを求め続ける子
～身に付けたい動きを明確にしたゲーム・器械運動
の学習～

＜授業の見どころ＞

視聴覚機器を活用した高学年における「かかえこ
みとび」、楽しく遊びながら基本的な動きを身に付け
る「跳び箱ランド」、打つ楽しさや守りの連係を重視し
た「西っ子ベースボール」を公開します。子どもたち
がよりよい動きを求め続ける姿をご覧ください。

公開授業領域：ゲーム（ベースボール型ゲーム）
器械運動

指導助言者：中京大学 三上 肇

第6分科会 岐阜市立岐阜中央中学校

＜分科会研究主題＞

主体的に運動に取り組む生徒を育てる体育授業の創
造

＜授業の見どころ＞

グループ活動において、リーダー、技能観察係、
態度観察係等が役割に応じて仲間に働きかけます。
態度観察係の働きでグループの規律が保たれ、技能
観察係の働きで個人や集団の技術の向上がもたらさ
れます。リーダーを中心としてチームワークを高め、
勝利や技能習得を目指し、課題を追究する生徒の様
子にご注目ください。

公開授業領域：器械運動
球技（バスケットボール）

指導助言者：鳴門教育大学 藤田 雅文

第5分科会 各務原市立那加第三小学校

＜分科会研究主題＞

できる喜びを味わい、力いっぱい運動する子

＜授業の見どころ＞

ゲームでは「タグラグビー」を簡易化したゲーム
を行います。チームで作戦を工夫し、いかに協力し
てトライするかをご覧ください。陸上運動では「走
り高跳び」を行います。より高く跳ぶことができるよ
うに、リズムカルな助走や踏切、空中姿勢を視点に、
仲間と教え合いながら記録に挑戦するところをご覧く
ださい。

公開授業領域：ゲーム（ゴール型ゲーム）
陸上運動

指導助言者：岐阜聖徳学園大学 佐藤 善人

第8分科会 羽島市立羽島中学校
<分科会研究主題> 「できた」喜びを味わい、自ら運動に親しむ力を育む 体育授業 <授業の見どころ> 柔道では、安全面を配慮し、「投げた!」という実感をもたせるための思考力・判断力や技能を身に付けるために段階的に指導します。 体づくり運動では、自分にとって必要な運動の仕方を身につけるために、練習を工夫し、選択する要素を入れることで、日常に生かしていこうとする意識を生み出します。
公開授業領域：体づくり運動 武道（柔道） 指導助言者：名古屋教育センター 伊藤 久仁

第7分科会 岐阜市立陽南中学校
<分科会研究主題> 運動技能の高まりを実感し、仲間とともに運動に親しむ生徒の育成 <授業の見どころ> 生徒の意識に沿って、ダンスの習熟過程を構造的に捉え、技術が上達する過程で生じる「つまずき」を明らかにし、解決のための手立てを明らかにした基本的指導過程を軸に、段階的に指導を行います。生徒が笑顔で生き生きと課題追究をすることで、自分たちの踊りの高まりを実感する姿を生み出していきます。
公開授業領域：ダンス 体育理論 指導助言者：岐阜大学 熊谷 佳代

第10分科会 岐阜県立岐阜高等学校
<分科会研究主題> 課題を解決する方法を考え実践をすることにより、体力の向上と豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる体育授業 <授業の見どころ> 体育理論で学ぶ「知識」を効果的に活用しながら、グループごとに工夫した練習を実施することで課題解決を図り、長距離走の技能向上を目指します。また、体育理論を身近なスポーツと関連づけながら、グループで積極的に討議する姿を公開します。
公開授業領域：体育理論 陸上競技（長距離走） 指導助言者：筑波大学 尾縣 貢

第9分科会 各務原市立那加中学校
<分科会研究主題> 運動ができる喜びを味わう体育授業 ～バレーボールにおける指導過程の研究を通して～ <授業の見どころ> 1年生では、ボールの落下地点に素早く移動し、カバーし合ってつなぐ姿を目指します。3年生では、隊形を使い分けて攻撃する姿を目指します。学年の発達段階に応じて、お互いの動きや作戦について教え合う生徒の姿をご覧ください。
公開授業領域：球技：ネット型（バレーボール） 指導助言者：岐阜大学 杉森 弘幸

第12分科会 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校
<分科会研究主題> 児童生徒の豊かな心と体を育む授業作り <授業の見どころ> 中学部では、視覚支援の活用や教材教具の工夫、導入に身体を動かす時間を取り入れて、運動量を確保します。また、評価方法の工夫や実態の違いへの対応により、意欲や主体性を高めます。 高等部では、視聴覚機器を活用した効果的な支援により、自ら動ける環境整備をします。さらに、スキルアップドリルや、生徒間の自己評価、データ等を活用し、意欲や技術の向上を目指します。
公開授業領域：球技（サッカー） 中等部 球技（サッカー） 指導助言者：東海大学 内田 匡輔

第11分科会 岐阜県立岐阜工業高等学校
<分科会研究主題> 運動やスポーツの楽しさを味わい、教え合い、助け合い、一人一人が豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身に付ける体育授業 <授業の見どころ> 生徒が主体となって話し合い、教え合いながら、自分たちの良さを発揮するための練習メニューを考え、ゲームの内容をレベルアップしていく姿や、工業の実習で使用するタブレットPCを活用してリアルタイムで自分の姿を映像確認し、完成された技の習得に向かう姿を見てください。
公開授業領域：球技：ゴール型（サッカー） 武道（柔道） 指導助言者：埼玉大学 野瀬 清喜

実技指導者講習会について

—実技内容のポイント—

幼稚園・保育園の部

日時：7月29日（火）

会場：東京都千代田区立富士見
小学校体育館

あそびでの多様な達成感は、工夫と創造を生み出し、積極的な人間形成に繋がる。指導者の日常の見取りから始まる「運動のつくりだし」に注目した講座を開講した。

①《スポーツにつながる楽しい運動あそびとコミュニケーション》同じあそびも遊び人数により、新しい魅力と困難さを生み出してくる。子どもの運動発達に伴う意欲を確かな有能性に導く視点を学ぶ。

講師：信州大学教育学部准教授
渡辺敏明先生

②《足育（あしいく）のススメ》

今、子どもたちはどのようなトラブルを受けているか。足育現状が報告。成長期の子どもだけでなく人の健やかな育ちに大事な足育を意識した楽しい健康体操、運動あそびを学ぶ。

講師：日本教育シューズ協議
会理事長 早川家正先生

公益財団法人 日本学校体育研究連合会 足育推進委員会 内
木勉先生・武田千恵子先生

③《日常にみられるあそびから「跳び箱運動」への導き》運動

の始まりは、これから何をするか。子どもが意識をもつことにある。この取り組みは確実に達成感を高めていく。遊び手と一体感を持った運動の補助について学ぶ。

講師：飯田女子短期大学元教授
授田中美智子先生

④《音刺激による即時反応力の育成》生活の基本はよいリズム形成にある。個々の快い反応動作を大事に、自らが感じる速度や強弱感は、自由に物利用や表現に導く。さらに物の利用や仲間との関係活動が加わると、個々の感性は一層ダイナミックで創造的な活動に高まることを学んだ。

講師：飯田女子短期大学教授
庄司裕江先生



小学校の部

日時：七月二十八日（月）

会場：千代田区立昌平小学校体育館、台東区立黒門小学校プール

①水泳 講師：東京学芸大学教授
授柴田義晴先生

水慣れ、浮き方、エレメンタリーバックストローク、息継ぎのコツ、けのび、クロールと平泳ぎの基本、プールのサイドにて救済法のポイント指導、結びはターンの練習を行った。クロールのストロークでは、親指を下に向けると自然に肘が上がる。平泳ぎ中の目線は、手の甲の上、手のひらは水面下十五センチほど肩よりも前にかく。クロールの指導は『足』、平泳ぎは『手』から。



②表現運動 講師：東京都女子体育連盟副会長長津芳先生、足立区立上沼田中学校主任教諭岡本和隆先生

表現運動では、動きがコントラストに変わる『急変』の動きを体験、なりきるとは、選んだものによって動きが変わる。忍者の修行では、軽い感じ・大きい感じ、コミカルな感じで動き、次にピカソ『ゲルニカ』と踊るスポーツニユーズをチームで表現。

リズムダンスでは、自己紹介足し算ゲームなどを行いながらチーム作り。幾つかのパート練習の積み上げの後、全員で踊った。伝え合う中でチームごとに盛り上がった。いった。



平成26年度全国学校体育

二日目 七月二十九日(火)

③バスケットボール 講師…群馬大学准教授鬼澤陽子先生、前橋市立粕川小学校長内藤年伸先生

教授池田延之先生、教務助手陳洋明先生
短距離走のスタートの姿勢、疾走フォーム、全員で練習

中・高等学校兼
特別支援学校対象の部
「器械運動」

日時…七月三十日(水)

会場…朝日生命体育館「塚原体操センター」体育館

講師…林 秀紀 先生(塚原体操センター主任指導員)
志賀 指導補助員、久野 指導補助員

ボールを使つての体慣らし、二人組でのピボット(軸足が伸びないように)、シュート練習(チームごとにゴール数を記録)、バウンドパスはその位置、強さ。常に顔は起こして状況を見る。ランニングシュート右サイドでは、『右足左足シュートなぜか』『リングの側でボールを離すため』、ボールを持たない動きを四角形で練習。ケンステップを使い4対2、ハーフコートで3対2、オールコートで3対2。学習の手順が体感できた。

走り幅跳びでは、リズムアップ幅跳びを練習。5歩助走、9歩助走を手拍子とケンステップを利用して練習。有効な着地の指導の仕方学習

午前中は器械運動より「マット運動」の講習会を行なった。内容は、準備運動を通しての体幹やバランスの確認・強化、柔軟性の向上などについての技術指導から始まり、前転・伸膝前転・倒立・側転を通してその補助の仕方や習得のこつをご指導頂いた。

午後は「跳び箱運動」の講習と施設見学・体験を行った。前半は跳び箱運動の「開脚跳び」への導入の指導から始まった。補助用具の使用法や相互に補助をし合う練習方法など、実際に授業に役立つ講習であった。台上前転の後、台上でもマット上でも活用できる前方倒立回転の指導を受けた。印象的だったのは、おかしな癖が見え始めたら、一つ前に戻り、基本動作や前のステップを徹底的にマスターすることが上達の早道であるという点であった。基礎基本とは単調なトレーニングではなく、動作自体が達成感を味わうことの出来点も勉強になった。

④陸上運動 講師…国士舘大学



ポイントは、高度な技の習得を中心とする指導ではなく、運動の経験によつて運動好き、体育好きを増やす授業を目指すものであり、楽しく安全に生徒が運動に親しむ素地を育てることである。特に準備運動から始まった講義は「安全の確保、ケガの予防」について自然と生徒自身が意識することができるよう工夫されていた。この指導を取り入れることで「体幹」を鍛え、同時に柔軟性・巧緻性を高め、レディネスを高められる。



平成26年度足育（あしいく）の推進について

―足が変われば『明日』が変わる―

足かけ四年目を迎える足育は、テレビでも紹介されるようになり、今後の児童生徒の健康を考える重要な視点となりつつあります。これは、日本教育シュューズ協議会（以下JES）と日本学校保健会による一万人に及ぶ詳細なデータに基づく提案に端を発しております。我が公益財団法人日本学校体育研究連合会は、この実態に鑑み、JESとの共催事業をはじめました。以下にこれまでの実践を振り返り、今後の取り組みを示します。

第一期は、足育の位置づけ、教育的な意義付けを求めて、体育科の授業での試み、実技研修、足元の健康づくりの先達への諮問を行った黎明期での実践でした。

第二期は、小学校カリキュラムにおける位置づけを行うため全体構想図を作成し、主として、特別活動の学級活動での実践を一年生、四年生、五年生で実施しました。所謂『保健指導』四五分としての扱いです。そこで、

児童への取り組みやすさを考え、
“そうか” “そうだ” “そうしよう” という課題解決的な授業モデルを創造し、実証授業を行いました。授業の工夫をする中で、児童自身が自分の問題として足を元を見つめられるようにしたフットプリンターの活用、足長ばかりではなく足の幅も選択できる靴の提供などは、JESの全面的な支援によってなしたことです。五年生での実践で、児童の足にぴったりの靴を履かせたところ、窮屈であるとの反応が大半でした。大きすぎる靴に履き慣れた実態が伝わってきました。

第三期は、二年半にわたる研究実践を指導資料集としてまとめること、さらに、学体連全国大会会場で足育実践のプレゼンテーションを行ったことです。指導資料集のタイトルには、“足が変われば明日が変わる”と銘打ち、A S a F i r s t S t e p との思いを記しました。また、すぐに授業イメージをわかせていただけるようにDVDも添付

しました。内容の中心は①なぜ今、足の健康教育（足育）が必要か②子どもの足と靴の実態③子どもの足と靴の知識④今、何をすべきか。としました。中でも、足育が急務であることから、学校教育への位置づけ明確にすること、生活化すること、足の専門家の要請が急務であることを記しました。全国大会では、会場の入り口に幟を掲げ盛大にお披露出し、多くの先生方に参加していただきました。

さて、その際お配りした指導資料集とともに、足育の出前授業へのお誘いを同封しました。

第四期は、その出前授業で始まりました。実践内容をパッケージ化し、小学校のどの学年の児童の指導にも答えられるように、また、対象が児童ではなく先生方、保護者にも対応できるように工夫しております。実施できる月は、奇数月の土曜日から日曜日、当面は関東近県での実施です。

普及啓発の側面が本会の主な

る活動となりつつあります。そこで、名称を“足育指導資料作成委員会”から“足育推進委員会”と改称しました。

本年度の新事業としては、研究推進園・校の立ち上げです。二年間の研究実践で江戸川区立船堀幼稚園、練馬区立大泉西小学校に委嘱しました。二年後には、それぞれの実践を発表していただける予定です。内容として、新たに、園児、児童の足長、足幅に合った靴を日常化した場合、土踏まずの形成、体力に変化があるかどうかなどを加えました。JESからの絶大な支援によって、為し得る研究実践です。ご期待ください。

さらに、足育の全国大会を広島県学校体育研究連合会等の共催、広島県教委、広島市教委の後援で、八月七日金曜日午後一時三〇分から広島市立広島特別支援学校体育館にて、五十三名の先生方、養護教諭、学校医の方々をお招きして実施しました。次年度は、福島県の予定です。また、中・高等学校からの要望に応えるために、学体連理事、参与も決定しています。結びに、拡大していく事業に対応するため、委員を五名増員しました。

○内木勉（練馬区立大泉西小学校副校長）

○眞砂野裕（昭島市立拝島第一小学校副校長）

○難波誠二（台東区立大正小学校副校長）

○武田千恵子（足立区立足立小学校主任教諭）

○関口亮治（千代田区立お茶の水小学校主幹教諭）

○吉川則久（奥多摩町立古里小学校主幹教諭）

新委員

○濱田哲（台東区立千束小学校主幹教諭）

○小島大樹（調布市立第三小学校主任教諭）

○西島秀一（新宿区立落合第五小学校主任教諭）

○両角知子（昭島市立武蔵野小学校主任教諭）

○前村章太（世田谷区立駒繫小学校教諭）

なお、JESからも委員を推薦頂き、更なる充実を図ってまいります。

以下に、四年間の実践内容を各期ごとに構造化した図、出前授業で実施された低・中・高学年の実施内容を示します。

足育の歩み

第1期 (平成23年度)

○「足育指導資料作成委員会」として発足

○活動内容

- ・足育の考え方について検討→共通理解 「そうか!そうだ!そうしよう!」
- ・「足育の目標」の作成
- ・第1回授業研究 1年生体育 体づくり運動 (多様な動きをつくる運動)
「うご☆たのじまであそぼう」 授業者 武田 千恵子

足育の把握

第2期 (平成24・25年度)

○活動内容

- ・足育全体計画の作成
- ・第2回授業研究 4年生学級活動「土ふまずの役割」 授業者 関口 亮治
- ・第3回授業研究 5年生学級活動「足を元気に一ぱったり上履き」 授業者 吉川 則久
- ・第4回授業研究 1年生学級活動「正しい姿勢、歩き方と上履きの履き方」 授業者 関口 亮治

カリキュラム作成と検証

第3期 (平成25年度)

○活動内容

- ・「足育」パンフレット・DVDの作成
- ・第52回学校体育研究大会東京大会にて実践発表
(パンフレット・DVDの配布、会場内でのPRビデオ、ブースでのプレゼンテーション)
- ・学体連ホームページにパンフレット・DVDをアップ

足育の実践 発表

第4期 (平成26年度)

○「足育推進委員会」に名称変更

○活動内容

- ・出前授業
府中市立第十小学校 (低学年)、葛飾区立柴又小学校 (中学年)、武蔵村山市立第二小学校 (低・中・高学年)
- ・足育推進校 (園) の設置 練馬区立大泉西小学校、江戸川区立船堀幼稚園
- ・中学校、高等学校への発展
- ・全国学校体育実技指導者講習会の開催
- ・JESとの共催事業
- ・第53回学校体育研究大会岐阜大会にてプレゼンテーション

足育の推進

「足育」を学校教育に!
「足育」を生活の中に!
「足育」の専門家を!

足育実践事例 低学年『正しい姿勢、歩き方と靴の履き方』

(東京都府中市立府中第十小学校 東京都武蔵村山市立第二小学校での実践)

学習活動	発問・指示など	紙芝居
1 学校生活の場面を想起し、問題を把握する。 (1) 運動会 (2) 公園での遊び 【そうか!】	「この紙芝居を見てみましょう。」 「運動会、楽しかったですね。この子はげんきくん。元気いっぱいです。かけっこだけでなく、玉入れ、そしてリレーでも大活躍。疲れた一なんて一言も言いません。」 「この子はへとへとくん。あらら、せっかくのかかけこなのに靴が脱げてしまって転んでしまっていますね。運動会が終わった後は、疲れてぐったりです。」 「公園です。ここにも、げんきくんとへとへとくんがいます。二人はどうか？」 「げんきくんもへとへとくんも毎日、みんなと同じようにがんばっています。でも、このように元気いっぱいだと疲れてへとへとです。どうしてでしょうか。」 C「どうしてかな?」	  
2 正しい姿勢や歩き方について考える。 (1) 立位	「これを見てください。どちらがよい姿勢ですか?」 ○よい姿勢は、背筋が伸び、両足に体重がしっかり乗っている。 C「1番!」 「どうして1番ですか?」 C「ピンとまっすぐに立っている。」 C「2番のほうは、背中が曲がってしまっているよ。」	 
(2) 座位	「次は、どうでしょう。どちらがよい姿勢ですか?」 ○よい姿勢は、背筋が伸び、両足がぴったり床についている。(いわゆるペタン・ピン・グー) C「2番!」 「2番はペタン・ピン・グーだね。」	
(3) 歩容	「次はどうでしょう。どちらがよい姿勢ですか?」 ○よい歩く姿勢は、かかとからしっかり踏みしめて歩いている。 C「1番!」 「かっこよく歩いている。」	

(4) 実際に行い、確かめる

3 姿勢や歩き方について大切なことを考える。

☆足裏に着目させ、足指をよく使うことや正しい靴の履き方につなげていく。

4 正しい靴の履き方について考える。

【そうだ!】

- (1) ファスナーのとめ方
- (2) かかと

5 正しい靴の履き方、足指を動かす体験をする。

【そうしよう!】

「実際にやってみましょう。まずは、立つ姿勢から。気を付けはどうだったかな?」

「次は、座っている姿勢。ペタン、ピン、グーだったね。」

「次は、歩く姿勢。体育の時間にやってるのと同じ、リズムに合わせてかっこよく。」

※必要に応じてリズム太鼓でリズムをとる。

「今、3つやりましたが、3つとも、大切なことがあるんです。何かな?」

C「ピンとまっすぐに。」

C「何かな?」

「それは、これです。」(紙芝居7を見せる)
(指さしながら)

「立っている時には、両方の足で立つ。座っている時には、両足を床につける。歩く時には一歩一歩、しっかり地面を踏んでいきます。」

「実は、へとへとくんもこのことをみんな一生懸命やっているんです。でも疲れてしまいましたね。げんきくんの疲れない秘密は何でしょうか?」

C「何だろう」

※状況に応じて、紙芝居1、2にもどって見せる。

「どちらがげんきくんで、どちらがへとへとくんでしょうか?」

○ファスナーをとめている。

C「赤だよ、赤!」

「これは、どっちでしょうか?」

○かかとをきちんと入れている。

C「赤、赤!」

「もうわかりましたね。正しく靴を履くことができれば、姿勢も歩き方もよくなるんです。そして、げんきくんのように元気いっぱいになるんですね。これを見てください。」

①脱ぐときにファスナーをゆるめる。(ベリベリ)

②かかとを合わせて履く。(トントン)

③ファスナーをしっかり締める。(ぎゅう、ピタ)

「実際に、靴を履いてみましょう。」

※机を前によせ、準備していた外靴をはいてみる。

※外靴をしまい、裸足で、体験する。

「手足の握手をしてみましょう。」

「足指ジャンケンをしてみましょう。」

「足指体操をしてみましょう。」(いも虫歩きなど)



6 正しい姿勢、歩き方、靴の履き方の生活習慣を身に付けることの大切さについて知る。

- (1) 足指を動かす体験
- (2) まとめの紙芝居
- (3) ふり返り

※上履きを履き、教師の回りに集まる。

紙芝居でまとめ。

(紙芝居12)「靴を正しく履くと、今、みんながやったのと同じように、みんなの靴の中で足の指がよく動くんです。足が元気になるんですね。」

「そして、たくさん、たくさん体を動かして遊ぶこと、運動すると足が元気になるんです。」

(紙芝居13)「それから、足が元気になるために大切なことをシューズ博士からもう一つ。足をきれいにすることです。さっき、手足の握手をしましたけど、こうやってふだんから、手と同じように足もよくあらうことが大事です。」

(紙芝居14)「靴下もきれいに洗濯します。」

(紙芝居15)「上履きもきれいにすることです。一週間の終わりにこれまでと同じように上履きを持ち帰って、きれいに洗濯しましょう。自分でお洗濯の手伝いをしているえらい人はいますか。」

「これが、げんきくんの元気の秘密だったんだね。姿勢だけでなく、靴の履き方も気を付けて、たくさん体を動かして遊んだり運動したりするとみんなもげんきくんみたいに元気いっぱい足、体になります。」

(紙芝居17)「へとへとくんも靴をしっかりと履くように気を付けたら、こんなに元気いっぱいになりました。みんなにもげんきくんや、へとへとくんのように元気いっぱいの足になってほしいです。」



足育実践事例 中学年『足のアーチ・土踏まずの効果と立派な

(東京都葛飾区立柴又小学校 東京都杉並区立高井戸第三小学校
東京都武蔵村山市立第二小学校での実践)

土踏まずを育てる方法』

【土踏まずの大切さパート授業台本】

この学習では、15キロのポリタンク2本を用意し、水を入れておきます。クラスや学年の力持ちの人にできてもらい、実際に体験してもらいます。ここにあるポリタンクを持ち上げられますか。

両手にもつことはできますか？

両手に持ったまま歩いてみてください。どうですか？

左右合わせて30キロ。この重さは何の重さだと思いますか？

この重さは、みなさんの体重の平均、皆さんの体重とだいたい同じです。

つまり、皆さんは毎日この30キロの重さをもって歩いてるのです。

それでは、皆さんは、1日何歩ぐらい歩くと思いますか。

- ①10000歩 ②15000歩 ③25000歩

正解は①、だいたい1万歩ぐらいだそうです。

1年間でごくまで歩けるか考えてみましょう。

まず、皆さんの1歩の歩幅を考えてみましょう。

歩幅は身長÷100で考えることができます。

3・4年生の身長の平均は130cm。

130÷100、つまり歩幅は30cmと考えることができます。

歩幅が30cm、1日平均10000歩、1年365日、

計算すると、およそ1100km歩けることができるのです。

1100kmでは、東京からどこまで行けることができるでしょうか？

- ①USJや通天閣が有名な大阪

- ②本州の1番北、りんごが有名な青森

- ③北海道の真ん中、旭山動物園が有名な旭川

正解は③、北海道の旭川まで行くことができます。

皆さんの足は、30キロの体重をしょって、東京から旭川まで歩くのです。

すばらしい力ですね。

皆さんの足は毎日とてもがんばっているんですね！ 今日はその「足」について考えてみましょう。

この写真を見てください。どちらが人間の骨でしょうか。

正解は、Bです。

Aの骨は、実はお猿さんの足の骨です。

どこが違うでしょうか。

そうですね。人間には、へこんだところがあります。その部分を『土踏まず』と言います。足を地面についても、土がつかないから、『土踏まず』といふのです。

この土踏まずは、人間にしかありません。他の動物にはありません。

人和其他の動物の違いは、どこにありますか。

それは、2本足で立つて歩くことです。お猿さんも時々2本足で立つて歩きますが、

ずっと歩くわけではありません。その姿勢も前屈みになって今にも手をつきそうです。

だから、赤ちゃんには土踏まずはありません。

土踏まずがどんなにすばらしい働きをしているか、考えてみましょう。

まず、クッションの役割です。跳んだり、走ったりしても君たちの大切な

頭脳に衝撃が伝わりません。また、30キロもある体重を乗せているのに、

クッションがありますから、長い時間歩いても疲れません。しかも、素早く動けます。

さらに、体のバランスを取る役割をしています。

この写真を見てください。

これは橋の写真です。この形、土踏まずの形に似ているでしょう。この形

をアーチと言います。私たちの足の裏にはこのアーチがあり、クッションの役割をしています。だから、重さや衝撃に負けないのです。

皆さんが歩いたり、走ったり、跳んだりできるのは、このアーチのおかげなんです。特に土踏まずのおかげです。土踏まずは大切なですね。

皆さん足の土踏まずは、立派に育っていますか。

これを見てください。昔の人の足跡です。見事に土踏まずができています。

どうしたら、こうした立派な土踏まずができるのでしょうか。

それは、いっぱい運動をすることです。そして足指をたくさん動かすことです。そのほかには、こんなことも大切なんですよ。

立派な土踏まずを育てるために大事なことの1つは、姿勢です。

足裏のアーチのほかに私たちの体にはもう一つアーチがあります。

それが背骨です。背骨はSの字をしています。

このSの字が、しっかりとできているとよい姿勢になり、土踏まずの成長を助けます。

立っているときの姿勢、踵をあげて気をつけの姿勢。心掛けましょう。

座っているときの姿勢も大切です。低学年で学んだ『ペタン』『ピン』『ブー』を覚えていますか？

最後に大切なのは、靴の履き方です。『ペリペリ』『トントン』『ギュー』『ピタッ』自分の足に合ったくつを正しく履きましょう。

今日のお話の大切なことをまとめましょう。

1. 人間の足にある土踏まずがクッションやバランスをとる役割をし、長くすばやく体を動かすことに役立っています。
2. 土踏まずを育てるために、たくさん運動し、足指を動かしてください。
3. 立っている時の姿勢、座っている時の姿勢、正しい靴の履き方も土踏まずを育てるために大切なことです。



足育実践事例 高学年『自分の足型を見るポイントと

(東京都武蔵村山市立第二小学校での実践)

正しい靴選びの必要性について』

◆このおじいさんの名前はシューズ博士。

みんなの足とくつから健康について考える「足育」を研究している博士です。

今日は、シューズ博士と一緒に、みんなの足やくつについて考えていこうと思います。

◆ちよつとわかりづらいかもしれないけれど、この写真を見てください。

足の跡がうつっているのわかるかな？ わかりやすく線をつけてみるね。

◆この足跡は今から約270年前の太夫さんの足跡です。

足の指がしっかりとうつっていて、力強い感じがするねえ。

◆次の写真を見てみましょう。これはみんなのお父さんやお母さんくういの大人の足の形です。さっきの太夫さんほどではないけれど、指がしっかりとうつっていて、土ふまずがしっかりとっているね。

◆土ふまずってわかりますか？足の親指の下からかかとに向かうカーブになっているところのことです。みんなにもあります。わかりますか？

◆みんなの足はどうなっているか調べてみたいと思いませんか？

今日はフットプリンターを使って自分の足型をとってみましょう！

◆みなさん、自分の足型を見てどうでしたか？

◆C：写っていない指がある。

C：土踏まずが写っていない。

C：絵で見るような足型だった。

◆自分の足型を見るポイントをシューズ博士に聞いてみましょう。

◆①足の指が5本うつっていますか

◆②土ふまずのカーブがありますか

◆③全体が同じ色の濃さになっていますか

◆この足型を見てください。(指が写っていない子の足型)

これは、みなさんと同じ5年生のお友達の足型です。どうですか？

◆C：僕と同じで、小指が写っていないよ。

C：土ふまずがちゃんと写っていないなあ。

足の指が全部写っていない子は、立ち方や姿勢に気を付けて生活していくことで、足の指が全部写るようになります。みなさんも立ち方や姿勢に気をつけてくださいね。

◆次の足型を見てください。(土踏まずが写っていない子の足型)

◆C：私とは全然ちがうな。

C：この子は、運動は得意なのかな？

この足型の子は、足がとても速いそうです。オリンピックに出るような選手でも、足裏の筋肉が発達して土踏まずが写らない人もいますそうです。ひとりひとりに個性があるように、足型も様々なものがあるんですね。

◆シューズ博士が教えてくれた3つのポイントに当てはまらない場合、足のトラブルにつながる可能性もあるのです。

◆例えば、次のようなものです。

「外反母趾」…足が圧迫され、足の指が変形し激しい痛みを伴うこともあります。

「巻き爪」…足の指の爪が圧迫され、爪の両側が内側に巻き込み激しい痛みを伴うこともあります。

「浮き指」…足形をとってみると足指が5本写らない子どもが増えています。くつの中で足指をしっかりと動かしたり、ふんばったりできていないことが原因です。

◆これらの足のトラブルは、どうして起きてしまったと思いますか？

立ち方や座り方、歩き方がよくない。運動不足などが考えられます。

◆もちろんそれらも原因のひとつですが、一日の中で長い時間履いている上履きやくつが、自分の足にぴったり合っていないことも考えられます。実は、小学生・中学生・高校生の43%が、こうした足のトラブルをかかえている

という報告もあるのです。

◆では、そうならないためにはどうしたらいいのかシューズ博士に聞いてみましょう。

◆①自分の足に合ったくつをはくこと

◆②足指を使った運動をすること

◆③とにかく体を動かし、たくさん運動をすること　これが1番なんです！

自分の足に合ったくつをはいていると、足指を使うことができ健康な成長につながります。

そして、さっき見せた写真のような足のトラブルを防ぐことにつながります。
自分の足にあったくつを正しくはき、足指を使った運動をいっぱいすること。
そして何よりも体を動かし、たくさん運動してくださいね！



平成25年度 個人賛助会員

個人賛助会員 (50,000円)

青 森 県	柿 崎 紀 一
-------	---------

個人賛助会員 (10,000円)

北 海 道	飯 沼 晃
	成 田 純 一
青 森 県	横 山 宏 幸
岩 手 県	藤 田 睦 彦
山 形 県	後 藤 雅
福 島 県	岩 部 一 道
	吉 川 博
	大 原 正 義
茨 城 県	五 末 眞 知 子
	百 々 塚 恭 男
栃 木 県	小 堀 康 典
	石 川 栄 壽
	長 島 偉 之
群 馬 県	金 子 悦 夫
	立 見 賢 治
埼 玉 県	菊 池 悦 夫
東 京 都	村 尾 知 昭
	村 田 守
	谷 口 義 弘
	山 田 稔
神 奈 川 県	木 村 俊 彦
	米 山 和 久
	藤 塚 久 雄
新 潟 県	小 林 克 之
	蟹 澤 宏 光
石 川 県	山 越 清 寛

福 井 県	松 田 文 博
	西 村 昭 治
	西 川 讓
長 野 県	降 旗 良 治
岐 阜 県	羽 田 野 正 史
静 岡 県	山 本 富 裕
	中 澤 雄 藏
山 梨 県	杉 田 孝
	松 本 純 也
愛 知 県	神 戸 一 夫
	山 本 芳 則
	川 口 惣 吉
三 重 県	加 治 佐 伊 都
京 都 府	和 田 健
奈 良 県	大 谷 茂
鳥 取 県	能 藤 善 彦
島 根 県	藤 村 昇
岡 山 県	藤 井 学
	岡 崎 悦 子
広 島 県	小 石 文 彦
香 川 県	梶 野 雅 義
愛 媛 県	本 田 隆 彦
	青 野 司
高 知 県	松 田 光 香
福 岡 県	平 川 壯
佐 賀 県	澤 山 忠 澄
熊 本 県	坂 梨 登 美 代
大 分 県	井 陽 二 郎
	山 崎 隆 典
沖 縄 県	新 城 和 道

平成26年9月期 賛助会員 （企業・団体）

児島株式会社

日本教育シューズ協議会

株式会社ギムニク

フットマーク株式会社

教育シューズ振興会

株式会社学研教育みらい

学校体育シューズ研究会（（株）アスティコ）・（協和（株））

株式会社大修館書店

株式会社第一学習社

NPO法人 日本Gボール協会

大塚製薬株式会社

日進ゴム株式会社

株式会社光文書院

東京書籍株式会社

大日本図書株式会社

セノー株式会社

ブランロッシュ株式会社

有限会社ラウンドフラット

東商アソシエート株式会社

<大会協賛企業>

トップツアー株式会社

本財団事業は

「公益信託日本教育シューズ学校体育振興基金」よりの助成を受けております。

クロールで25m泳ぐ近道。

クロールで25

浮く運動が苦手な児童に役立つ
練習用具を提案します。
卒業までに【全員が25m泳げる】
のために。

がんばる先生応援サイトオープン!

各学校の水泳授業情報を配信しています。

※現役の先生を対象とした会員登録制です

<http://www.swim-teacher.jp>

検索 水泳common



★ご登録された方にスイムキャッププレゼント★

品名:クロールで25
品番:132139
サイズ:120~170cm
カラー:紺色のみ・男女兼用
仕様:オールインワン型水着
浮力シート8枚セット
価格:4,500円(本体価格)



泳げる近道
1
着るだけで
水平に浮く

体を4点の浮力で吊り上げ、水平姿勢
(ストリームライン)をつくる水着です。



呼吸するときも
上半身が沈まない
ようサポート

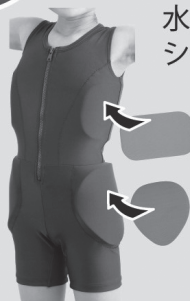
← 浮心 →
水平に浮く

沈みやすい下半身を
浮かせて泳ぎやすい
姿勢をつくれます

泳げる近道
2
浮力が調節
できる

習得段階に合わせ浮力の調節ができます。
最後は浮力シートなしで泳げるよう補助。

前に
いるので
着替えも
簡単!



水着の内側にあるポケットへ浮力
シートを入れます。(左右に装着)



上達したら薄いシートへ交換

すまいるスイムシリーズ

【超はっ水で速乾・軽量】

速乾

軽量

超はっ水

超はっ水だからできる速乾・軽量!

着用者の90%以上が軽さを実感(当社比)。



水にぬれても、肌にはりつかずさらっとした軽い着心地

超はっ水だから...「着替えがラクラク!!」

*使用後の持ち運びもラクラク! *通常の水着より速く乾きます!

安全・安心!!「赤外線盗撮」から子供達を守ります。

「生地が柔らかく脱ぎやすい!」



従来品

新商品

●水を弾き軽い! 体が浮く感じ!

●はっ水効果は3年以上持続!



従来品

新商品

赤外線盗撮防止素材を採用! 安心・安全な水泳授業を応援!
フットマークだけのオリジナル新素材!

技術企画・開発(協賛特許) 朝倉染布 株式会社 / 山田化学工業 株式会社

フットマークの新素材は、赤外線を吸収する染料加工を施すことで
悪質な赤外線盗撮を予防し、赤外線盗撮から子供達を守ります!

www.footmark.co.jp

※右記までご連絡下さい。資料等をお送り致します。

フットマーク株式会社 スクール販売部

東京都墨田区緑2-7-12 TEL:03-3634-0506

FOOTMARK®

スクールシューズのプレミアムスタンダード

教育シューズ® PK-X3



極める

グリップ性

耐久性

超軽量

サイズ…21.0cm～28.0cm 29.0cm 30.0cm 31.0cm アッパー…ポリエステル/人工合皮
ソール…合成ゴム/合成樹脂

(公財) 日本学校体育研究連合会特別賛助会員
教育シューズ振興会

TEL(086)243-2218 FAX(086)243-2253

(製造部) 日進ゴム株式会社 TEL(086)243-2467

<http://www.nisshinrubber.co.jp>

e-mail:kyouiku-shoes@nisshinrubber.co.jp

豊かな スポーツライフの ために

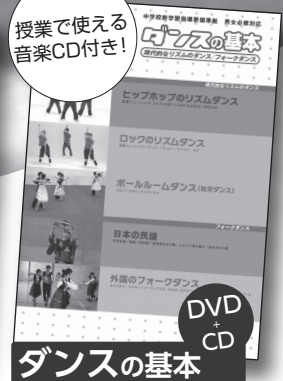
単元計画
授業モデル
技の指導
が充実！



男女
必修

「武道」指導の手引き

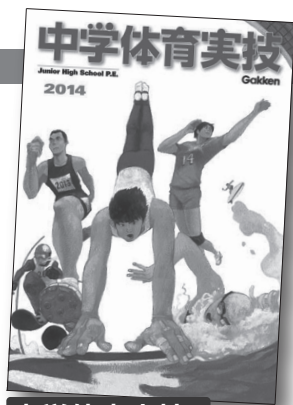
授業で使える
音楽CD付き！



DVD
+
CD

ダンスの基本

平成26年度
3年改訂新版！
学習指導要領
対応



中学体育実技



中学保健体育の
学習 1～3年



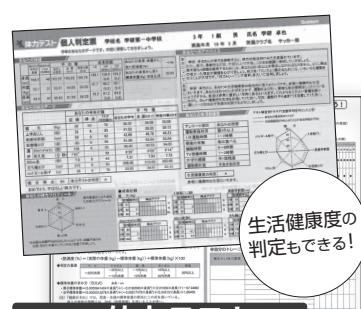
中学保健体育
ノート 1～3年

保健体育副読本



最新のルール
が1冊に！

図解
スポーツルール



生活健康度の
判定もできる！

学研式 体力テスト

(公財)日本中学校体育連盟 特別賛助会員

(株)学研教育みらい

学校教育事業部 TEL 03-6431-1151(代表)
〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

学研 学校教育ネット

検索

<http://gakkokyoiku.gakken.co.jp/>

21世紀スポーツ大事典

Encyclopedia of Modern Sport

編集主幹 中村敏雄

高橋健夫

寒川恒夫

友添秀則

B5判・上製・函入
134頁(予定)
予価 本体30,000円+税



◆本事典で取り扱うテーマ (章見出し)

スポーツと概念
スポーツと政策
スポーツと法
スポーツとジェンダー
スポーツと経済
スポーツとアカデミズム
スポーツと健康
スポーツと身体文化
スポーツと医科学
スポーツとメンタリティー
スポーツと組織
スポーツと宗教
スポーツと技術・戦術
スポーツと学校体育
スポーツと歴史
スポーツと民族
スポーツと思想
オリンピック
スポーツとルール
スポーツとメディア
スポーツと倫理
スポーツと芸術
スポーツと科学技術
スポーツと人種
スポーツと障がい者
スポーツ種目 (約200種目)

2014年秋刊行予定

21世紀を迎え、スポーツ分野の研究は大きく発展・進歩し、その実情も大きく変化している。人々のスポーツへのかかわり方は多様になり、グローバルな視野での関心が高まっている今日、既知の分野に加え、スポーツ選手のプロ化やスポーツの商業化に伴う経済分野、環境やドーピング、暴力などの倫理分野、そして体育の存在理由が問われている体育科教育分野など、新たな分野からもスポーツ事象を解説していくことが求められている。

◆本事典の主な特色

- ① スポーツがグローバルなものとして認識された1900年以降に焦点を当てた、わが国初の事典。
- ② スポーツ・体育にかかわる事象を25のテーマに分けて体系的に整理して解説。「女性スポーツ」や「障がい者のスポーツ」についても独立したテーマとして設定。
- ③ スポーツ種目の章では200を超える競技種目を検索しやすい五十音順に配列。
- ④ オリンピック、パラリンピック等の国際大会が行われる種目は、1900年以降の技術・戦術の変遷を軸に詳解。
- ⑤ 体育・スポーツ界の泰斗19名を編集委員として、分野を超えた、各界気鋭の研究者が執筆。

スポーツにかかわるすべての人の知識の拠り所

大修館書店 〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1 ☎03-3868-2651 (販売部)
<http://www.taishukan.co.jp>

Gakushin®

SCHOOL SHOES
S-2800



S P E S スペース
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

School Shoes としての耐久性
ただ長持ちさせるのではなく、
運動性能と安全性能も大切です。

協和株式会社

神戸市長田区西尻池町1丁目3番8号
TEL : 078-611-4376(代)

GOLDSTAR
SPORTS SCHOOL SHOES

GX



体育館
シューズ

S P E S スペース
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

高機能・ジャストフィットを実現
超軽量モデル 片足 (24.5cm) **290g**

ASTICO
株式会社 アスティコ

岡山県岡山市中区江並417-1
TEL : 086-276-2010(代)

【新体力テスト集計・分析システム】

(文部科学省発表新体力テスト準拠)

体力づくりをめざして

- 個人票はカット済み
- 部活顧問用資料を充実
- 測定実施の完全バックアップ

集計・分析処理料金(1人分)

230円(税込)



みつめたい教育と未来

第一学習社

以下の資料をお届けします

- 学校総括表
- 順位一覧表・級門分布表
- 判定別一覧表
- 生徒指導カード(個人カード控え)
- クラス台帳
- 生徒指導台帳
- 部活分析表
- 運動部活別比較表
- 部活台帳
- 学校集計資料・保健部資料
- ★教育委員会提出資料を完備

TEL 082-234-6806 FAX 082-503-3084 〒733-8521 広島市西区横川新町7-14

- 大阪支社/☎06-6380-1391
- 新潟営業所/☎025-290-6077
- 横浜営業所/☎045-953-6191
- 福岡営業所/☎092-771-1651

- 札幌営業所/☎011-811-1848
- つくば営業所/☎029-853-1080
- 名古屋営業所/☎052-769-1339
- 金沢出張所/☎076-291-5775

- 仙台営業所/☎022-271-5313
- 東京営業所/☎03-5803-2131
- 神戸営業所/☎078-937-0255
- 沖縄出張所/☎098-896-0085

クライミングで 遊びながら 体力づくり



★クライミングの効果

- 腕・腹筋・背筋・脚の筋肉に加え、バランス感覚をフル活用することで、総合的に体力を向上します。
- バランスを保ちながらの重心移動で体幹を鍛えられます。
- 大きな達成感が、自分自身への信頼と自信(セルフエスティーム)を生み出します。
- 登っている人を応援、一緒に考えることでコミュニケーション能力が育まれます。

クライミングのことなら弊社におまかせください。20年間で400ヶ所以上のクライミング施設を施工し、年間50件以上の保守点検も実施。(国内シェア70%以上)

豊富な経験とノウハウで、安心のサポートをいたします。

東商アソシエート株式会社 クライミング事業部

〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-9-4

TEL:03-4321-0142 FAX:03-4321-0141

<http://www.climbing-tosho.com/>

大塚製薬は、これからも 健康と体力の向上を 応援します。



健康と安全なスポーツ活動のために…

大塚製薬は1980年のポカリスエット発売以来、水分補給の重要性について啓発活動を行っています。

児童・生徒だけでなく、教職員、保護者を対象とした熱中症セミナーも数多く実施し

教育現場での安全なスポーツ活動を応援しています。

水分補給に適した飲料

汗として失われるのは、ただの"水"ではなく

ナトリウムやカリウムなどの"イオン"を含んだ水分です。

「ポカリスエット」なら水分と一しょに失われた、ナトリウムやカリウムなどのイオンを、適切な濃度で含んでいるので、すみやかに効率よく、カラダに吸収されます。

製品に関する詳しい情報は ▶ <http://www.otsuka.co.jp/poc/>

POCARI
SWEAT



POCARI
SWEAT
ION
WATER

東京大会 全学習指導案集 販売のご案内

第52回 全国学校体育研究大会

東京大会学習指導案集 ここに完成！

11月6日(木)
岐阜大会
にて販売

第52回全国学校体育研究大会東京大会は、平成25年11月14日に両国国技館で全体大会が、翌15日には17の分科会会場において授業研究会が開催されました。
東京で33年ぶりに開催された全国大会の核となる授業研究で、どんな授業が行われたのかという貴重な記録としてここにお届けします！



幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

すべての校園種 80 の学習指導案集を集録！

～学習指導案を集録している東京大会分科会会場一覧～

- (幼稚園)
第1分科会 江戸川区立船堀幼稚園 (小学校)
第2分科会 中央区立久松小学校 第3分科会 港区立港南小学校
第4分科会 台東区立黒門小学校 第5分科会 杉並区立天沼小学校
第6分科会 葛飾区立葛飾小学校 第7分科会 府中市立府中第十小学校
第8分科会 調布市立第三小学校 第9分科会 町田市立南第四小学校
第10分科会 東京学芸大学附属竹早小学校 (中学校)
第11分科会 千代田区立麹町中学校 第12分科会 港区立御成門中学校
第13分科会 墨田区立南国中学校 (高等学校)
第14分科会 東京都立飛鳥高等学校 第15分科会 東京都立東高等学校 (特別支援学校)
第16分科会 東京都立文京盲学校 第17分科会 東京都立調布特別支援学校



A4判 392頁 白黒製本(表紙カラー) 価格2000円(税込)

発行 平成26年8月11日 編集 東京大会実行委員会
発行者 東京大会実行委員会 会長 古家 真 連絡先 事務局 荒川区立第五崎田小学校内 事務局員 石塚 吉之
TEL 03-3829-9515 FAX 03-3819-6808

新しい 体育 の授業づくり

新しい体育の授業づくりに取り組む先生、保健体育教師を目指す学生におすすめ!

編著者 勝亦紘一 (中京大学名誉教授) 家田重晴 (中京大学教授)

- 体育の授業や運動部の活動を通して、生徒たちが楽しく生涯にわたるスポーツライフの基礎を築くための、指導者の道標。
- 保健体育科教育を熟知している著者が、21世紀の新しい体育の授業づくりへの挑戦。

B5判 208頁 定価 (本体 2,000円+税)



たのしい 体育

- 学習指導要領に沿って、適切な運動例を豊富なイラストで紹介しています。
- 各学習ごとに学習の進め方を示し、運動の楽しさや喜びを味わいながら、学習内容が身につくよう構成いたしました。

B5判 1〜6年 各1冊 各定価 (本体 457円+税)

学習指導要領準拠



図説 新 中学校 体育実技

生徒が全ての領域を学習した上で選択学習を深めていくことができるよう、生涯スポーツへの広がりや考慮しながら、今まで以上に活用できる基礎・基本を重視した解説を行っています。

※表紙イメージは今年度版のものです。 指導書付き B5判オールカラー 本文 336頁 定価 (本体 727円+税)

大日本図書

本社 / 東京都文京区大塚 3-11-6 ☎03-5940-8674
名古屋支社 / 名古屋市千種区内山 1-14-19 高島ビル ☎052-733-6662
大阪支社 / 大阪市北区東天満 2-9-4 千代田ビル東館 6階 ☎06-6354-7315
九州支社 / 福岡市中央区荒戸 2-4-21 ワカビル ☎092-721-5340

<http://www.dainippon-tosho.co.jp>

成長期の正しい足の発育促進に大きな効果を
発揮する画期的な21世紀のシューズ。

教育シューズ
フレッシュ21

教育バレー®DX

推薦

(公財) 日本学校体育研究連合会
全国小学校体育研究連盟



4つの優しさ

- 優しさ 1 つま先ゆったり! 外反母趾予防設計
- 優しさ 2 洗たくカンタン! はずせる中敷
- 優しさ 3 着地らくらく! 衝撃吸収材
- 優しさ 4 足にピッタリ! 0.5cmきざみ

(公財) 日本学校体育研究連合会特別賛助会員

日進ゴム株式会社

〒700-0975 岡山市北区今8丁目16番17号

TEL (086)243-2456 FAX (086)242-0550

<http://www.nisshinrubber.com/>

教育シューズ 教育バレー は、日進ゴム(株)の登録商標です。

映像データベース

生徒たちの目が輝く
理想的な映像教材！

小学校保健 DVD版

○日々の生活の中の食事、運動、すいみん、休養のバランスを意識することや、自分自身の成長を振り返ること、異性や他人に対する思いやりの心など、自分たちの心と体に起こっている変化について、思春期の入り口に立つ子どもたちに分かりやすく解説していきます。また身のまわりにある環境に対する安全や病気や薬物など、今日子どもたちが直面している新しい問題についても、最新の映像資料と分かりやすい解説で授業をサポートします。

○DVDのチャプターは学習項目に沿った構成になっていますので、全体を通した視聴でも分断視聴でも、授業の流れにあわせた活用の仕方が可能です。

- ① けんこうな生活 (3年)
- ② 育ちゆく体とわたし (4年)
- ③ 心の健康 (5年)
- ④ けがの防止 (5年)
- ⑤ 病気の予防 (6年)



平成27年
4月
発行予定



全5巻 各15,000円(税別) 指導の手引きつき

中学校保健体育〈保健編〉 DVD版

○災害や事故など、とっさのときにあわてずに対応できるよう、応急処置や心肺蘇生法の流れを分かりやすく解説しています。

○DVDのチャプターは細かなステップで分けて構成していますので、学習する項目にあわせて視聴することができます。

- ① 応急処置
- ② 心肺蘇生法



好評
発売中

全2巻 各18,000円(税別) 指導の手引きつき



東京書籍 ICT事業本部(第一営業部)

東京 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1
大阪 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-4-10

大阪東書ビル
Tel:03-5390-7577 Fax:03-5390-7582
Tel:06-6397-1351 Fax:06-6397-1357

ホームページ <http://www.tokyo-shoseki.co.jp> 東書Eネット <http://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

※画面は開発中のものです。製品の内容、仕様は予告なく変更する場合がございます。

商品についてのお問い合わせは、ICT事業本部 第一営業部までお願いいたします。ユーザーサポート：☎ 0120-29-3363 E-mail: soft@tokyo-shoseki.co.jp

平成27年度版『体育の学習』ご採択校に無料でご提供！

DVD版

アプリ版



※ 詳しくは弊社ホームページでお知らせします。

光文書院

〒102-0076 東京都千代田区五番町14
TEL 03-3262-3271 (代表) FAX 03-3230-4190
ホームページ <http://www.kobun.co.jp/>

秋からの授業に アクセントを

神経系の運動能力を高め、運動神経を鍛えるコーディネーションDVD

みんなのコーディネーション運動 幼児編【DVD】 運動が大好きになる！遊びながら運動神経がどんどん良くなる！

監修：東根 明人(帝京平成大学) [カラー、42分] 価格：2,800円 **新刊**

みんなのコーディネーション運動 親子編 PART 1,2【DVD】 親子で遊びながら、運動能力が自然とアップする！

監修：平井 博史(中部学院大学/ハドル・スポーツクラブ) [カラー、PART1:67分、PART2:53分] 価格：各 2,800円 **新刊**

みんなのコーディネーション運動 小学生編 PART 1,2【DVD】 体づくり運動に最適！

監修：東根 明人(帝京平成大学) [カラー、PART1:66分、PART2:33分] 価格：各 2,800円

コーディネーショントレーニング in SPORTS

ミニバスケットボール編 [カラー、70分] テニス編 [カラー、62分] 価格：各 3,800円

DVDで見てわかる体育指導のツボ

やればできる！下野六太先生のすごい体育【DVD】 体育の授業を超えて生徒の能力を引き出す授業を一挙公開！

監修：下野 六太(福岡県春日市立春日南中学校 保健体育科教師) [カラー、75分(本編30分+付録映像45分)] 価格：3,500円

紅白対抗リレーで勝つ！新・運動会で1番になる方法【DVD】 走りはすべての基本。リレー必勝法付

監修：深代 千之(東京大学大学院教授) [カラー、42分] 価格：3,000円

かけっこで1等賞をとる！運動神経のつくり方【DVD】 かけっこが上手になる運動紹介。幼稚園～小学低学年向

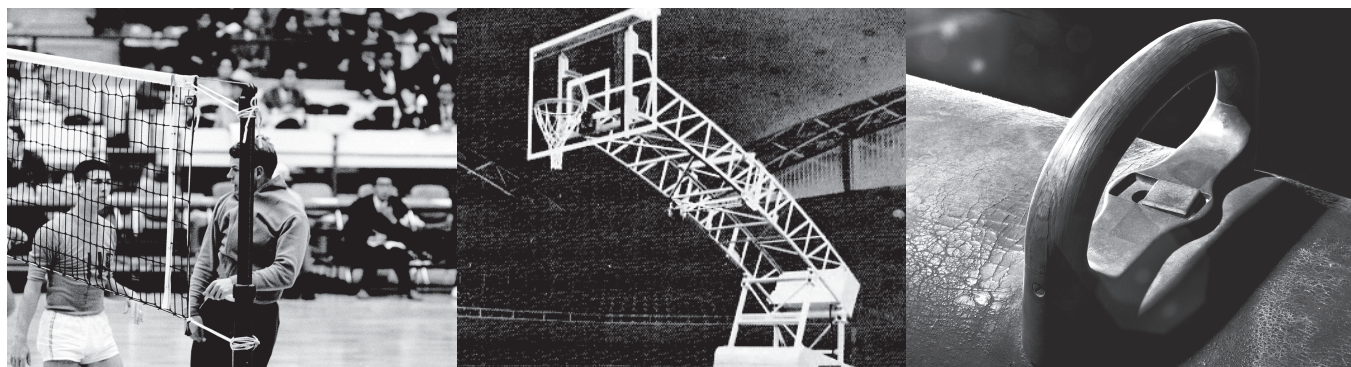
監修：深代 千之(東京大学大学院教授) [カラー、55分] 価格：3,800円

ジュニアアスリートが最初に行いたい 筋力&パワートレーニング【DVD】 「力強さ」はここから鍛えよう！

監修：永友 憲治(日本競輪学校教官) [カラー、60分] 価格：3,800円

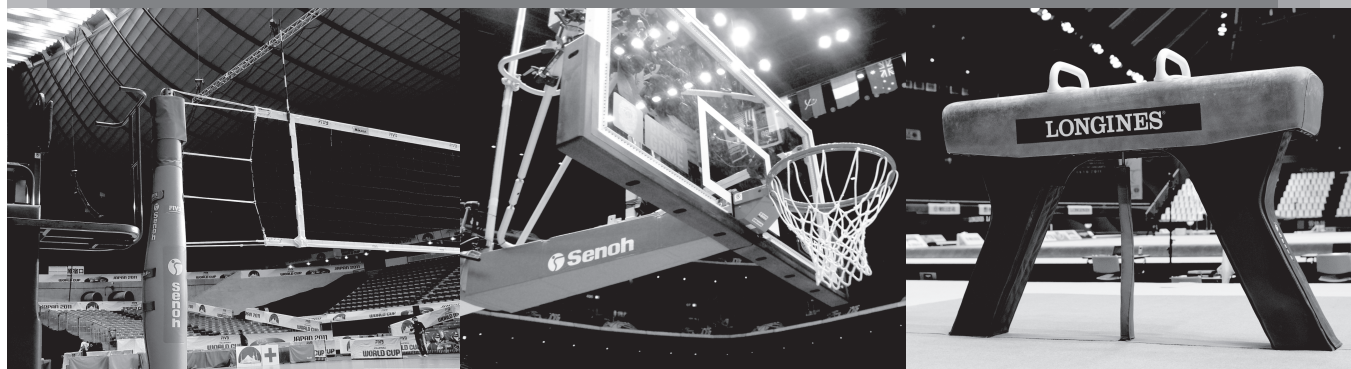
※価格は全て税別です。

 **Round Flat** ラウンドフラット カスタマー
サポートセンター TEL=048-792-0156 <http://www.roundflat.jp/>



スポーツと健康の未来を創る

Innovation for Sports and Wellness.



 **Senoh**

セノー株式会社

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台 250 番地

TEL : 047-385-9110 FAX : 047-385-9177

www.senoh.jp/



(公財)日本学校体育研究連合会
認定

Gボール レンタルします!!

一度使ってみたい、数が足りない...など

授業で使用する期間のみ貸出いたします(有料)

サイズも多種取り揃えております

詳しくはこちらへアクセス

www.g-ball.jp/school.html

お問合せ先

NPO法人 日本Gボール協会

office @ g-ball.jp

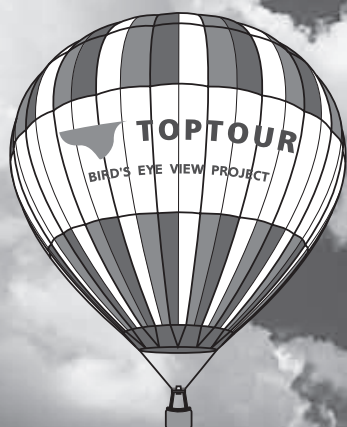
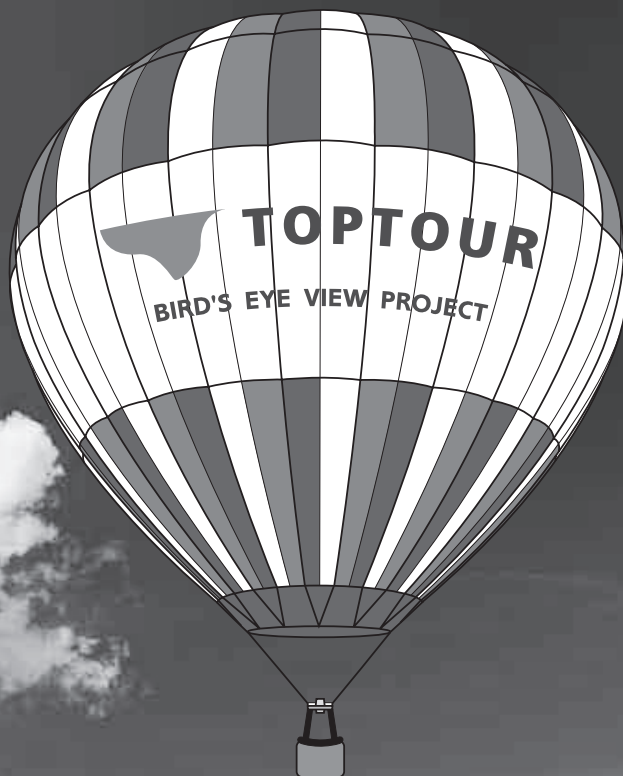
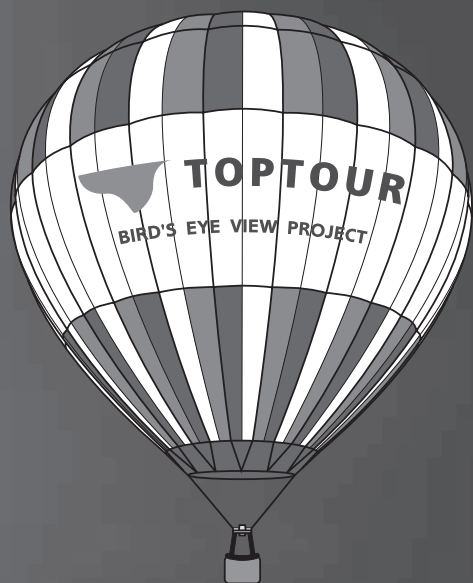


本財団事業は

「公益信託日本教育シューズ学校体育振興基金」

から助成を受けております

出逢い、発見、そして感動。



まだ見ぬ世界を求めて

トップツアーは、全国学校体育研究大会を応援しています。



トップツアー株式会社

観光庁長官登録旅行業第38号 © JATA正会員・ボンド保証会員

TOPTOUR <http://www.toptour.co.jp>





Physio Roll

フィジオロール

ギムニクオリジナルのユニークな形。
厚みのある形状で耐久性に優れています

品番	品名
8800	フィジオロール 30 青
8801	フィジオロール 40 赤
8802	フィジオロール 55 黄
8803	フィジオロール 70 青
8804	フィジオロール 85 赤

※商品名末尾の数字は最大直径です



Gymnic Plus

ギムニクプラス

万が一穴が開いても破裂することなく、ゆっくりと空気が抜ける
安全性の高いタイプ。(Burst Resistant Quality)
カラーバリエーションも豊富



Gymnic

ギムニク

厚みのある形状で耐久性に優れています。
弾力性、反発力が強く、
強い負荷をかける運動に最適

品番	品名
9545	ギムニク 45 黄
9555	ギムニク 55 赤
9565	ギムニク 65 青
9575	ギムニク 75 黄

※商品名末尾の数字は最大直径です

フィットボール

輝く真珠色が映える。万が一穴が開いても破裂することなく、
ゆっくりと空気が抜ける安全性の高いタイプ
(Burst Resistant Quality)

Fit Ball



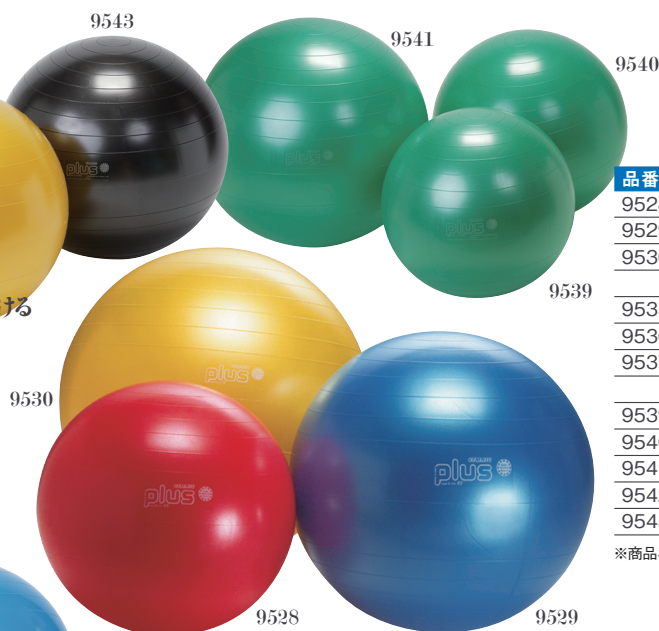
品番	品名
9505	フィットボール 55
9506	フィットボール 65
9507	フィットボール 75

※商品名末尾の数字は最大直径です

公益財団法人 日本学校体育研究連合会 認定ボール



平成25年4月、
あらたに“認定体育用具”
として承認されました



品番	品名
9528	ギムニクPLUS55 赤
9529	ギムニクPLUS65 青
9530	ギムニクPLUS75 黄

品番	品名
9535	ギムニクアルテ 55
9536	ギムニクアルテ 65
9537	ギムニクアルテ 75

品番	品名
9539	ギムニクPLUS55 緑
9540	ギムニクPLUS65 緑
9541	ギムニクPLUS75 緑
9542	ギムニクPLUS65 黄
9543	ギムニクPLUS65 黒

※商品名末尾の数字は最大直径です

オプティボール

ギムニクオリジナルの透明ボール。
厚みのある形状で耐久性に優れています



Opti Ball

品番	品名
9655	オプティボール 55
9665	オプティボール 65
9675	オプティボール 75

※商品名末尾の数字は最大直径です



GYMNIC BALANCE

CE すべての商品はヨーロッパの安全基準である
CE規格に合格しています。

輸入元
株式会社ギムニク
www.gymnic.com



日本には1種類の間しかいない。
体操服を着たことがある人間だ。

COLUMBINE
ACTIVE SPORTS WEAR

児島株式会社

本 社/〒711-0911 岡山県倉敷市児島小川2-4-60
TEL 086-473-4634 FAX 086-472-0866
URL: <http://www.netlaputa.ne.jp/~kojima>
e-mail: gyomu4@kojima-gp.co.jp

(公財) 日本学校体育研究連合会賛助会員
(公財) 日本学校体育研究連合会推薦品



JQA-EM 5215
ISO14001:2004
児島株式会社、コロムバイン様



JQA-QM7340
ISO9001:2008
児島株式会社、コロムバイン様、株式会社

つねによりよい学校体育の
環境づくりを提案しています。